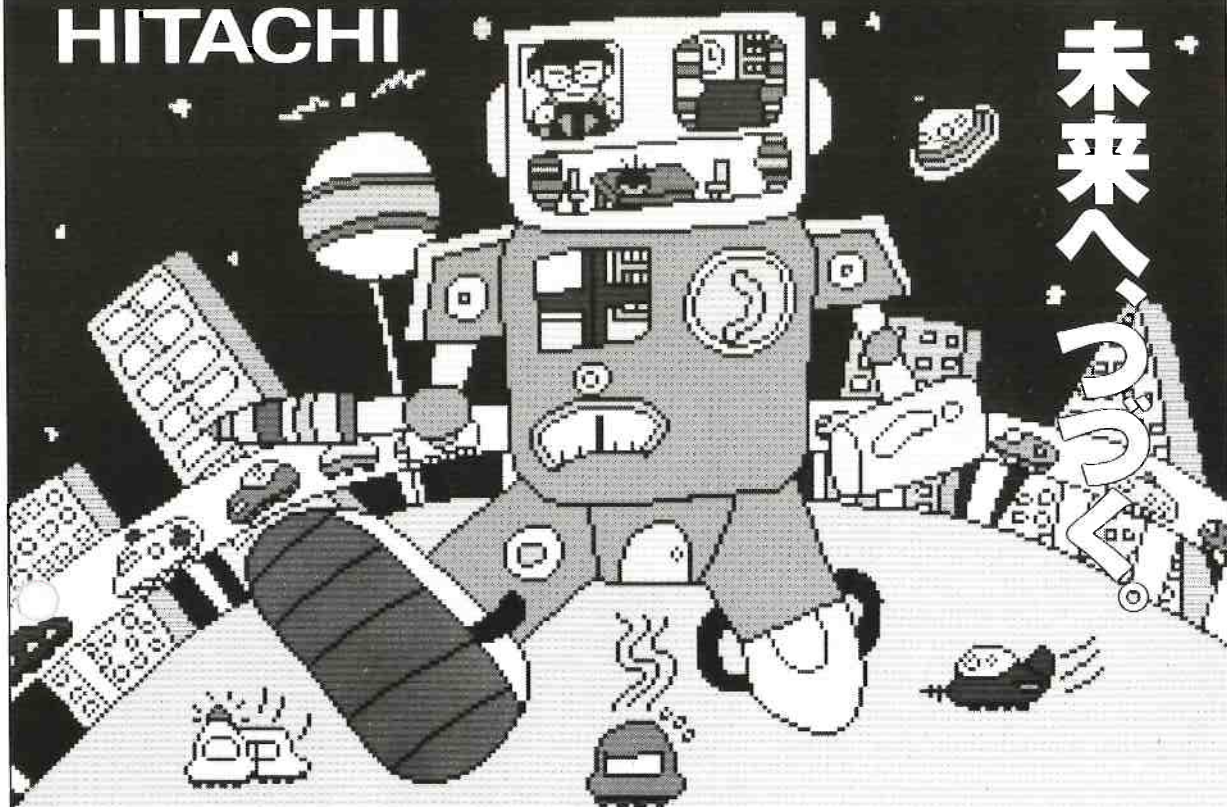


HITACHI



人がいて、街があつて、豊かな社会があり、快適な生活がある。

そんな私たちの暮らしも、そう、調和をめざす技術の力で支えられているんですね。

上の絵は、小学6年生のCG(コンピュータ・グラフィック)アーティスト、

瀧本大介くんが描いてくれた「ロボット・ハウス」。

おうち全体がロボットになっていて、どこにでも行けるんですって。

次の、次の世紀くらいかな。こんなロボットが大活躍する日だって、来るかも知れません。

夢を見る力。夢を叶える力。未来へ、つづく。日立です。

ロボット・ハウスのお通りだい。

人と技術の理想をめざす

Interface

中体連、日本協会に加盟

財団法人 日本中学校体育連盟の平成5年度からの加盟が、去る2月27日の(財)日本ハンドボール協会の理事会で承認されました。

長年に渉る諸先輩のご指導と中体連の普及活動の結果、同連盟への加盟ハンドボールチームは平成4年度は1788チームとなり、今年度から開催されるJOCジュニアオリンピックカップ・ハンドボール大会を加えて全国大会は夏、春の2回となりました。

同連盟はチームの増加にともない体制の整備も着実に進め、今回の加盟を実現されました。我々も新しい仲間と手を携え、ハンドボール普及のため一層の努力をしていきたいと思ひます。

(財)日本ハンドボール協会 平成5.6年度役員決定

去る2月27日の評議員会に於いて、新役員が次の通り決定しました。尚、各ブロック、各連盟選出の役員決定をまって、3月13日の理事会に於いて全役員役職が決定する予定。

理事	齋藤 英四郎
//	立石 孝雄
//	米倉 功
//	渡邊 佳英
//	中澤 重夫
//	植村 繁
//	山下 泉
//	大西 武三
//	井 薫
//	大塚 文雄
//	竹野 奉昭

理事	木野 実
//	小西 博喜
//	殿水 幸雄
監事	松本 重雄
//	大野 金一

中体連ハンドボール部加盟チーム数

	男子	女子	計
北海道	22	9	32
青森	0	0	0
岩手	17	16	33
宮城	9	7	16
秋田	3	1	4
山形	9	8	17
福島	19	14	33
茨城	33	31	64
栃木	10	14	24
群馬	17	10	27
埼玉	38	17	55
千葉	28	27	55
東京	102	56	158
神奈川	75	41	116
山梨	20	10	30
長野	8	9	17
新潟	0	0	0
富山	29	20	49
石川	18	13	31
福井	10	4	14
静岡	3	5	8
岐阜	35	31	66
愛知	152	122	274
三重	12	20	32
滋賀	11	5	16
京都	15	11	26
大阪	63	35	98
兵庫	24	20	44
奈良	15	7	22
和歌山	12	7	19
鳥取	3	3	6
岡山	2	2	4
広島	14	9	23
山口	11	9	20
徳島	26	22	48
香川	0	0	0
高松	15	12	27
愛媛	9	4	13
高知	10	8	18
福岡	11	21	32
佐賀	2	2	4
熊本	23	19	42
長崎	11	9	20
大分	6	7	13
宮崎	10	6	16
鹿児島	6	6	12
沖縄	32	26	58
合計	男子1023	女子765	計1788

平成4年8月現在

平成5年度(1993年)事業予定表

	全国大会	主要国内大会	国際大会・交流	強化関係(海外遠征・強化合宿)
'93/4			男・Nヨーロッパ遠征Ⅰ 4/13-4/30 ドイツ他	男・NA第1次合宿 4/4-4/10 男・NB第1次合宿 4/4-4/10 女・JN第1次合宿 4/
5	第34回全日本実業団選手権 (男子) 5/14-16 大阪 (女子) 5/14-16 名古屋			男・NB第2次合宿 5/27-5/31 女・N第1次合宿 5/17-5/26 女・JN第2次合宿 5/
6	第18回日本リーグ(前期) 6/1-7/11 全国各地		女子・JN韓国遠征 6/	女・JN第3次合宿 6/
7	第13回全国クラブ選手権大会 7/23-25 神奈川 第6回全国小学生大会 7/31-8/2 京都	第44回五大都市 体育大会 7/9-11 京都		男・NA第2次合宿 7/17-7/23 男・NA第3次合宿 7/28-8/2 男・NB第3次合宿 7/17-7/23 男・JN第1次合宿 7/17-7/23 女・N第2次合宿 7/25-7/31 女・JN第4次合宿 7/
8	第22回全国中学校大会 8/19-22 奈良 第44回全日本高校選手権 8/2-7 栃木 第20回全国高専選手権 8/9-10 鳥取 第36回全日本教職員選手権 8/9-13 愛知	東日本学生選手権 8/17-21 山梨 西日本学生選手権 8/13-17 福岡 国体ブロック大会 8/下 各地	第4回女子アジア選手権 8/20-30 中国	男・NA第4次合宿 8/10-8/16 男・NB第4次合宿 8/25-8/29 女・N第3次合宿 8/1-8/31 女・JN第5次合宿 8/
9	第18回日本リーグ(後期) 9/29-10/17 全国各地		第7回男子アジア選手権 9/3-15 パーレン 第9回女・JN世界選手権 9/1-20 ブルガリア	男・JN第2次合宿 9/10-9/12
10	第48回国民体育大会 10/24-29 香川			
11	第36回全日本学生選手権 11/8-14 金沢 第18回日本リーグ(後期) 11/7-11/21 全国各地 第18回日本リーグプレイオフ 11/26-28 東京			
12	第45回全日本総合選手権 12/16-19 名古屋			男・NA第5次合宿 12/20-12/26 男・NB第5次合宿 12/20-12/26 男・JN第3次合宿 12/20-12/26
'94/1			女・N韓国遠征 1/	男・NA第6次合宿 1/19-1/28 女・N第4次合宿 1/25-1/31 女・JN第6次合宿 1/
2	第25回全日本実業団 男子トーナメント 2/11-13 神奈川 第2回全日本実業団 女子トーナメント (未定)		男・JN韓国遠征 2/	男・NA第7次合宿 2/10-2/19 男・JN第4次合宿 2/19-2/23
3	平成5年度全国高校選抜 3/24-28 名古屋 第2回JOCジュニア オリンピックカップ 3/26-27 大阪		男・Nヨーロッパ遠征Ⅱ 3/ フランス他 女・Nヨーロッパ遠征 3/ 男・NB韓国遠征 3/	男・NB第6次合宿 3/19-3/22 女・N第5次合宿 3/4-3/10

日本協会加盟にあたって

(財)日本中学校体育連盟ハンドボール競技部長

真田 元

前競技部長・中島朋晴先生(埼玉)よりの懸案であった(財)日本中体連ハンドボール競技部の加盟団体としての認定の件が、平成4年度の理事会及び評議会にて承認していただきましたことをまずお礼申し上げます。

昭和30年、全国中学校体育連盟が設立されて以来34年、多くの諸先輩先生方の努力の積み重ねにより、平成元年には財団法人となり現在にいたっています。

日本ハンドボール史から、日本中体連(全国中体連)と日本協会との接点をさがすと、昭和47年の全日本中学校(生)大会(現在の全国中学校大会)の実施決定が上げられる。

第1回大会は昭和47年8月17日(19日)に愛知県・青少年公園で男女各10チームの参加で実施され、同時に大会運営の万全を期し、さらに綿密な準備をするために、日本協会はブロック選出中学委員を発表した。

そのメンバーは、北海道・宮崎
光市先生、東北・熊田栄一先生、
関東・海保和夫先生、東海・西川

勤也先生、北信越・寺崎一夫先生、近畿・山中善之介先生、中国・滝川侃志先生、四国・楠原敏明先生、九州・宍戸幸一先生方で、開催地の調整、参加チーム数、参加人員(現在は選手15名登録・15名出場)等、現在の全国大会の基盤を作っていたいただきました。

その後、昭和54年、文部事務次官通達により、中学校の全国大会は学校教育活動としての大会としてのスタートを切りました。また、昭和56年には全国中体連の組織強化の一環として、全国中体連競技部長会が設置され、全国大会対策委員と競技部長合同会議により、次年度の全国大会要項の審議がされるようになった。

この競技部長会の設置により、全国9ブロック代表委員長を中心としたブロック内組織がより強化され、全国大会(選抜競技大会)開催ブロック持ち廻り方式へと移行して行った。

以上のように、開催地の輪番制など幾多の変遷を経ながら今日を迎えた陰には、諸先生方のご努力をぬきにしては語ることはできません。

いと思います。

■日本中体連として今後の課題

一、チーム数の増加を目指したい
昭和45年度、8月に全国中学校指導者講習会が開催されているが、中学ハンドボール界の実情は、愛知、大阪、熊本あたりから、その活動が散発的に伝えられるだけであり、チーム数の把握も都道府県単位であった。

昭和52年度は、男子702チーム、女子473チームで、12都道府県で中体連に専門部の設置がされていない状況であったものが、平成4年には男子1023チーム、女子765チームで2県のみが専門部未設置にまで増加しているが、他競技に比べるとまだまだである。しかも普及度に都県差が見られる。そこで、競技普及につとめ、2000チームを目標とし、47都道府県に専門部の設置を目標として努力して行きたい。それには指導者養成が急務と考えている。

都道府県(市町村)教育委員会、協会等あらゆる場面、機会を通じて働きかけて行きたいと考えて

いる。

二、組織のさらなる充実を目指す
ブロック代表委員長と都道府県専門委員長とのつながり、専門委員長とその都県協会とのつながり、中体連をささえている全国のより堅い結束と協力、さらには日本中体連と日本協会のつながりが密接か否かが大切なポイントになってくる。

これらの連携をスムーズにすることによって、全国大会がより円滑に運営されると考える。

※ ※

中学生のスポーツ振興には多くの課題があり、解決には時間を要することも多い。

私たちは、日本中体連の基本方針「中学生の体力の増強、競技力の向上を図り、体育・スポーツ活動の振興に努力する。そのために学校教育団体としての主体性を堅持し……」をうけ、教育専門職としての自覚の上に立って関係諸機関と協調し、自信と勇気をもって、高校・大学・社会に繋がるスポーツマンづくりを目指して行きたいと思えます。

Power & Intelligenceで
ゆたかな活力あふれる北陸を



北陸電力

アジア連盟委員会報告

'95世界選手権はアジアから3チーム予定

強化委員長 井 薫

この度、アジアハンドボール協会（AHF）の競技組織委員会（OC）の会議が、中東のアラブ首長国連邦（UAE）のアルアインで1月31日から2月2日に開催され、出席しましたので報告いたします。

に囲まれての会議でした。

昨夏バルセロナのオリンピック時のAHFの会議を経てのCOCC会議で、議題の中心はアジア選手権大会、世界選手権のアジア予選等の開催地日程調整ですが、これに来年の広島でのアジア大会、さらにカザフスタン、キルギスタン等の旧ロシアグループのAHF加盟の取り扱いを含め、過密化するスケジュールへの対応が今後の大きなテーマである事を確認しました。



競技組織委員会での井強化委員長(左)

本年開催の第7回男子、第4回女子のアジア選手権大会は、男子が9月3日から15日にバーレーンで、女子は8月20日から30日に中国交渉中）の案が提示されましたが、女子に関しては開催地はともかく、時期は日本国内のスケジュール的には無理であり、男子と同時開催を申し入れましたが、いずれにしても女子は極東のみの活動（女子の第1回大会のヨルダンでは同国やシリアが参加しましたが、それ以降は不参加）が現状で、開催の存続も検討の段階のようです。'95年から世界選手権大会、24ヶ国

参加となり、アジア大陸の出場枠も3ヶ国になる予定。

男子は2枠を極東、中東に分ける事が決定、残りの枠は旧ロシアグループの加盟等が複雑に絡むが、過去の実績からは極東2枠が妥当であり、COCC会議に判断を任せるとすると委員構成上、極東は不利であり、今後中国、韓国、日本で理事、委員が一つになって事にあたる大切さを痛感しました。

出発に際し、広島のアジア大会の準備委員会から英文の競技説明書を依託され、幾つかの質問と併せて配布しましたが、理解しやすさと大変喜ばれ、さすがは広島との評価を受けました。

真夏は45度くらいまで気温が上昇するアラビア半島ですが、この時期は20度前後と年間を通して最もしのぎやすく、湿度も低く快適でした。

国際空港のドバイからペルシャ湾に沿って180キロ北上する位置のアルアインは、まさに砂漠の中のオアシスの感じですが、郊外に出て10分程車で走るとそこはもう四方見渡す限りの砂また砂の地

平線で、異境に在りの感一入でした。私たちは中東と広義にとらえませんが、実際は石油産出国のリッチな湾岸諸国（GULF）の結束が強く、彼らの仲間意識の中にはヨルダンやシリアといった湾岸国以外は蔑視する風潮も感じられ意外でした。

AHFの組織はこの中東の小さな国も、中国のような広大な国も投票権は一つとする場合、圧倒的多数で中東の優位は動かず、またリッチな国のそれぞれが協会の役に満足感を抱いており、AHFを極東に移すのは困難と思われる。但し女子の競技が全く存在しない形は不自然で、男女共々の姿勢がとれない弱さはある。

極東としては、アジア大会、アジア選手権大会は付き合いととして考え、極東で出来るだけまとまって競技力の向上を目指し、世界選手権大会等で実績を残して、アジアの出場枠を少なくとも男子2：1、女子3：0を目指したいものと考えます。

滞在中に第12回の湾岸クラブ選手権大会、さらにフランスナショナルを招いてのUAEナショナルとの国際ゲームを観戦、各国のクラブもドイツ、ユーゴ、エジプトあたりのコーチから指導を受け意欲的ですが、レベルは日本リーグの2部くらいだと思います。レフェリーとスウェーデンから

ねばりは頑張り 気力は体力

医薬品



キョレオピン

医薬品



レオピンファイブ

効能・効果

- 滋養強壮 ●虚弱体質
- 肉体疲労・病後の体力低下・胃腸障害・栄養障害
- 発熱性消耗性疾患・妊娠授乳期などの場合の栄養補給



湧永製薬株式会社

- 札幌 011(747)2166 ●東京 03(3283)3351 ●社経 052(971)5901
- 大阪 06(458)8901 ●広島 082(264)4116 ●福岡 092(481)7382

招き、大会終了後約1ヶ月アラブ諸国の、指導にあたるこの事でしたが、日本でも全日本総合の決勝が、日本リーグのファイナルに世

界のトップレフェリーを招き、その後各地で指導を受けるような企画もそろそろあつて良いのではな

1日に6回、正しくはモスクでお祈りをするイスラムの地の短い滞在でしたが、アジアは広いを改めて実感する旅でした。

AHF医事委員会に出席して

アジア医事委員 西山 逸成(日本協会スポーツ医科学委員長)

AHF(アジアハンドボール連盟)が構成している5委員会の一つである医事委員会(パキスタン・クエート・シリア・ヨルダン・日本)に2月21・22・23日の期間、

ラホール会議(東洋一の美観を誇る英国風のジンナー公園を有する州都)に空路17時間を要し出席した。併しながら3ヶ国委員が欠席し、パキスタン(医事委員長・37歳・私有病院長・Dr. Mustatab

Ahamad)日本(筆名)・Secretary General(Mrs. Abul Hassan)とパキスタン国内医事委員(Dr. M. ood)の出席で行われた。

会議内容は、医事委員会が2年間期間で果たすべき事業概要と基本的日程等、AHFに対する提案であった。その概要を報告する。

一、ドーピングは競技成績を抹消し、かつ国名を汚す(発展を阻害)ものである。ドーピングテストの可能な研究所は既に東アジア(日本・韓国・中国)には高い水準で存在している。今後は中央アジアの新しい共和国(CUJIE)に研究所の設置・推進が望まれる。それは

中央アジアの新しい共和国の普及に役立つだろう。

二、医事委員会は、多くの加盟国に対してスポーツ医事・方法・意義に関する情報を収集し普及することが必要である。

三、医事委員会の年間予定は、AHF年間競技日程を各委員会委員長会間の検討結果によって連携・計画することが効率的である。

四、医事委員長は国際ハンドボール連盟(IFB)と相互の問題(ドーピング)について協議し合うべきであるということを合議した。

五、医事委員会は、AHFの発展・向上に有益な貢献をするため、少なくとも年間2回の委員会の開催を提言する。

六、医事委員会は、AHFの加盟国が各国所属選手の傷害状況について積極的に情報を交換すべきであると考えている。

七、西山委員は、エイズの危険について、早急な検討の必要性について言及し、ハンドボール選手に対するエイズ・テストを提案した。この提案は、選手の健康水準を

高め、エイズへの危険選手を減少させるために有益である。

八、医師・トレーナー・コーチ・監督・選手達の啓発教育のため、セミナーが、アジア各国の持ち廻りで開催各国のドクター達によって実際的に運営されることが提案された。

九、医事委員会は1992年のアジア選手権大会(広島)の医事報告書内容に賛辞を送りたい。1994年の第12回アジア大会(広島)では、開催国のAHF関係者(医事委員)とAHF医事委員会委員長(大会組織からの招待による)とて競技の医事活動等を行うこと

以上の提案内容は、選手・スタッフ達が試合・トレーニング現場で反映・実証が継続されるべきであらう。



医事委員会に出席した西山氏(左から2人目)。左はハッサン事務局長

これらの提案の背景はAHF規定に示されている次の「医事委員会業務」を前提とした。

①IFHのメディカルチェックとの協力による国際的に禁止されているドーピングの薬物チェックとセックス証明書に関すること、②選手権大会中の傷害観察と開催国医事チームとの協力、③傷病予防の最新の対策方法の継続的調査と加盟各国への情報の提供 ④AHF各委員会との連携協力、⑤ハンドボール競技によって生ずる傷病に関する医学的研究、⑥ハンドボール競技による傷病の排除(治療・予防)のための最新の方法及び意義の研究。

初参加で痛感した点は、中央アジア各国との接触の維持とAHF委員の立場の堅持(JHA・HG AOCの立場でないこと)である。

初参加で痛感した点は、中央アジア各国との接触の維持とAHF委員の立場の堅持(JHA・HG AOCの立場でないこと)である。

初参加で痛感した点は、中央アジア各国との接触の維持とAHF委員の立場の堅持(JHA・HG AOCの立場でないこと)である。

初参加で痛感した点は、中央アジア各国との接触の維持とAHF委員の立場の堅持(JHA・HG AOCの立場でないこと)である。

初参加で痛感した点は、中央アジア各国との接触の維持とAHF委員の立場の堅持(JHA・HG AOCの立場でないこと)である。



“人間の豊かさを求めるヒューマナイザー・中村荷役運輸グループ”。物流の一翼をにない、生活空間を豊かに、そしてよりよい社会環境づくりをめざして、これからは企業努力を続けていきます。

中村荷役運輸株式会社
港湾運送事業・港湾荷役事業・倉庫荷役業・通関業
船舶代理店業・倉庫業・自動車運送取扱業・その他の関連業務
●本社：〒108 東京都港区芝浦2-3-39 TEL03-3451-4161



おかげさまで
創業74年

NAKAMURA STEVEDORES & TRANSPORTATION CO., LTD.

男子ジュニアナショナルチーム韓国遠征報告

将来性豊かな日本代表選手たち

今回の遠征は、昨年と同様に韓国・中高体連副会長・権純昌先生のお世話により、ソウルに2月19日(金)から23日(火)までの5日間滞在した。

高橋、松井、奥田の3名に団長、日本協会理事・小西博喜先生、平成4年度全国選抜大会優勝校浦和学院高校監督・岩本明先生を含め5名の役員と選手19名計24名で出発した。宿泊はソウル市内のソウルホテルで、4日間共に定泊。19日到着後、早々にホテル内で権先生を中心にスケジュール調整を行う。

合宿内容は昨年度と異なり、試合を中心に組まれており、我々スタッフは韓国フットワークを主体とした基本練習を数多く体験して今後のハンドボールに役立てもらう計画をしていたのですが、韓国高校界No.1チームと日本選抜のレベルを知る事も必要であると考え、又、我々の目的を権先生に説明して試合終了後、30分間基本練習を指導して頂いた。

試合結果は次の通りである。
▼第1試合
会場、城南体育館 20日11時

日 本 23
11 | 9
12 | 7
泳薫高校 (ヨンフン)

▼第2試合
会場、永東高校 20日3時

日 本 21
10 | 6
11 | 9
永東高校 (ヨンドン)

▼第3試合
会場、永東高校 21日11時

日 本 21
10 | 8
11 | 10
永東高校

▼第4試合
会場、永東高校 21日3時

日 本 18
9 | 9
9 | 10
泳薫高校

▼第5試合
会場、仁川室内体育館 22日11時

日 本 20
7 | 12
13 | 10
静 石 航空高校

▼第6試合
会場、仁川室内体育館 22日3時

日 本 19
9 | 8
10 | 5
仁 川 専門大学

総評は、最初韓国の早い足さばきとパスに戸惑いがあったが、慣れるにつれてフェイント、空間プレー等の攻撃に対応できるようになってきた。しかし、日本よ攻防

監督 高橋 精一

共にプレーできる選手が少なく、その都度交替しなければならぬ現状で、速攻の展開、交替の判断が悪く失点につながるケースが多く見られた。

今回の遠征メンバーは全員、将来は実業団、大学でハンドボールを学んでいく選手達で、訓練を重ねて技術向上を図っていけば、試合戦績でもわかるように、将来はナショナルチームで活躍してくれる選手が昨年より多いように感じた。

参加選手の紹介と総試合個人得点を列記しておきます。

- GK安藤功規(北陸高)、河野剛(鹿児島工高)、元村東弘(桃山学院高)、FP佐々木教裕(拓殖大第一高)、29点、戸村正樹(横浜商高) 1点、大野順也(桃山学院高) 11点、須藤武志(浦和学院高) 1点、米満政佳(熊本市商高) 3点、佐伯喜喜(小松明峰高) 4点、猪野貴久(市川高) 13点、中野陽治(桃山学院高) 4点、森山透(熊本市商高) 7点、長谷川貴洋(新居浜工高) 4点、保科秀和(下松工高) 2点、荒尾 治(北陸高) 13点、池辺健二(久留米工高) 2点、永野貴裕(土佐高) 2点、野村広明(大分電波高) 24点、池田寿勝(熊本市商高) 2点、以上19名総得

点122点、失点103点。

攻撃面は個人得点で活躍度が判断できると思うが、守備面では猪野、池辺、中野、GK元村達がよく頑張ったと思う。

最後に、選手達と生活を共にしたが、ジュニア日本代表選手としての自覚はもとより、高校生としての基本的な生活習慣も身につけており、何ら心配のいらぬ遠征であった。

ジュニア育成に協力頂きました監督の諸先生方にこの誌面をお借りしまして御礼申し上げます。今後共ジュニア育成に御協力宜しくお願い致します。

コーチングスタッフとしての初遠征

2月18日から23日までの6日間、ジュニアナショナルチームのコーチとして、韓国遠征に参加させて頂いた。前年度の選抜大会で、やっと念願であった初優勝を遂げたばかりの未熟な指導力であるにもかかわらず、日本代表チームのコーチという重要な役割を与えていただいたことに、重い責務を感じると共に、近年めきめきと力をつけてきた韓国チームとの練習

や試合で、多くのことを吸収できる期待をもって、19日午前10時、大阪空港を出発した。

役員5名、選手19名の計24名は、11時50分金浦空港に到着した。1時にソウルホテルに着。その後、約1時間、権先生に今回の遠征のスケジュールについてのお話を聞いた。

20日、22日の3日間、権先生の御指導による練習と、1日2試

浦和学院高校監督 岩本 明
合、計6試合を行う予定とのことであった。

20日午前、泳薫高校と対戦。立ち上がり泳薫のサイドスカイプレーで先取点を取られたが、GK元村を中心とするディフェンスが固まり、逆に速攻、セットでは、ロング、ミドルが決まり前半を11対9で終了。後半は泳薫のフェイントを守り23対16と勝利を得た。同日午後、永東高校にて同校と

対戦。前半1-2-3のプレスデ
イフェンスに対する攻めのコンビ
がとれず、パスミス、キックミ
スが続出した。ハーフタイムに攻
撃パターンについての確認をした
が、後半もタイムイングがつかめず
コンビがとれない。しかし、永東
も日本の高いデイフェンスを攻め
きれず、21対15と辛勝した。

試合終了後、1-2-3デイフ
ェンスに対する攻撃パターンを練
習と、約30分間、権先生よりフッ
トワーク力強化の為にトレーニング
の指導を受けた。

21日、永東高校にて午前中は永
東高校と対戦。21対18で前日に続
いて勝利。午後、対泳薫高校には
18対19で惜敗した。

22日は、仁川室内体育館にて、
午前中、韓国の高校No.1チームで
ある静石航空高校と対戦した。昨
年8月の日韓ジュニア交流で浦和
学院高校が対戦した時には、ダブ
ルスコアで敗れたが、今回のジュ
ニアチームはチームとしての練習
が発前の1回(約2時間)のみ
である上に、3年生中心で、卒業
を間近に控え、少々練習不足であ
るにもかかわらず、後半には各選
手が自分の役割りを把握してコン
ビネーションが良くなり、猛然と
追い上げにかかったが、前半の5
点差が響き、20対22でタイムアッ
プ。惜しくも勝利を逃した。

同日午後、仁川専門大学と対戦。
19対13で勝利をおさめた。

23日、12時30分に韓国を後にし、
帰途について。

この遠征で、4チームと対戦し
たが、どの選手も脚力があり、ジ
ャンプ力、ステップワーク共に目
を見張るものがあった。そして、
どのチームも攻撃パターンがほぼ
同じであった。このことは、代表
チームを組む際、ポジション別に
選抜しやすく、コンビネーション
がとりやすいという利点となるこ
とが考えられる。

また韓国側は、勝ち試合は短時
間で終了してしまったり、とても
荒いデイフェンスであるにもか
かわらず、ラフプレーを審判が見逃
し、6試合で退場が1回のみとい
う納得のいかない場面はあったも
の、勝負に対する執念は強く感
じた。

また、日本チームは、勝敗には
執着せず、全選手に満遍無く試合
経験を積ませたことも有意義であ
った。

一高校の教員である私に、この
ような貴重な経験をさせていただ
いたことに感謝の意を表したい。
また、高校生への指導においては
県内・外の予選を突破し、日本一
となることを目標とし、目先の勝
負にこだわらぬものであるが、より
広い視野に立ち、「優秀な高校のハ
ンドボール選手を育てることが日
本のハンドボールのレベルの向上
に直結する」ということを自覚し
なければならぬと、痛感した。

この場をお借りして、団長の小
西先生を始め、高橋監督、松井・

韓国遠征を終えて

選手 須藤 武志

四日間、韓国と練習試合や韓国
の人にフットワークなどをコーチ
してもらい、日本では経験したこ
とがないことを経験したので、と
ても自分のためになった。試合で
は、あまり出番がなくて、コート
外からしか声をかけられなかった
が、試合を見ていただけでも自分
としては楽しかった。たまに試合
に出たけど、まるっきり自分のプ
レーができなかった。プレーがあ
わなかったというのもあるが、自
分の練習不足や弱気になった面も
いくつかあった。しかし、正直言
って自分はサイドよりも右フロ
ーターやセンターをやって、デイフ
ェンスをくずしてみたかった。韓
国人は日本人に比べて、フットワ
ークなど、相当きたえられている
と思う。泳東高校が毎日やっている
フットワークを教えてもらった
が、あれだけでへばっている自分
達を見て、なさげなく思った。韓
国人の人は、あのフットワークを
毎日こなしているのだから、いや
でも脚力がつくだらうなとつくづ
く思う。日本でも練習の他にあの
ようなフットワークを行えば、よ

奥田両コーチに御指導いただき、
心より御礼申し上げます。

召しませ自然。

シャトレゼのお菓子は山梨育ち。
日本の果実郷と極上の酪農地帯です。
澄んだ空気と豊かな自然を、
満喫しています。

そして、日本中をおいしい笑顔でみたとうと
シャトレゼのフレッシュパワ
ィドボール部ともども、
21世紀に向けて、
さらに大きく飛躍しようとしています。

選手 池田 寿勝

韓国のハンドボールに興味があ
ったのは、体型は日本人と同じぐ
らいなのに、どうしてオリンピック
クドともいい成績を残せるのか
ということでした。この韓国遠征
で思ったのは、小学生からフェイ
ントの動作、ポストのブロックな
ど、日本では中学生ぐらいがおそ
わっていることをやっていること
と、それを小学生達が一生懸命に
やっていることがやはり韓国はず
ごいなと思いました。高校生も、
僕達が練習したフットワークで、
とてもフェイントがされるし、サ
イドからのシュートをしようとし



Chateraisé

株式会社シャトレゼ

山梨県東八代郡中道町下曾根3440-1 〒400-15
電話(0552)66-5151(大代) FAX(0552)66-5156

ていても味方の位置をわかってい
る所と、ドイツではフット
ワークで手で押すドイツでは
はなく、足でついて体で止める
ドイツではフットワークをや
つてゐる所がすごいと思
いました。

自分は、オフェンスでもあ
いてるのに見てなかったり、前
を攻めようとしていなかったし、
ドイツでは奥田コーチが言
つていたことも守れずに、フ
ィーントに何本もひっかか
つて、点を取られたり、ペナ
ルティーを取られたりして、
全く言われたプレーがで
きませんでした。

この韓国遠征では、全然自
分のプレーの向上はできな
かつたけれども、韓国のチ
ームのプレー、韓国のフット
ワークなどをいろいろ見れた
のでとてもよかったです。

今年は今よりも足を引き
つぱってばかりでしたが、こ
こで勉強したこと(特にフット
ワーク)を練習に加えて、頑
張りたいたいと思います。

選手 猪野 貴久

今回の遠征に参加して韓国
ハンドボール界のすごさをお
もい知らされたのと同時に、
これからの自分のハンドボ
ールに対する取り組み方につ
いて数多くのことを考えま
せられました。

まず驚いたのは、最終日に試
合

をした体育館で、韓国の小学
生がポストとの2対2を練習
していたことです。日本では
小学生にハンドボールのこ
とを聞いても大多数が知ら
ないと答えるでしょう。し
かし、韓国では同年代の子
供が、日本の中・高生でも
なかなかできないポストを
使うプレーを簡単にこな
しているのです。このへん
に日本との違いをおおいに
感じさせられました。

次に驚いたのはフットワー
ク練習の練習量の多さです。
自分の高校の練習にはフ
ットワークの練習がなかつ
たので、二日目、三日目の
練習には正直言って泣き
そうになりました。でもフ
ットワークというのは特に
ドイツでは必要なのである
というのを試合を通じて思
いっきり感じたので、韓国
で教えてもらったフットワ
ークのいくつかを実践し、
これからの僕のハンドボ
ールに大いに役立ってい
たいと思いました。

この遠征で自分に与えられ
た課題は、まずパワーアップ
である。どうしても試合中、
韓国の選手に力負けしてし
まうので、ポストのオフェ
ンス、ドイツと両方とも後
半になってしまふことが多
かった。二つ目は精神力・
集中力の強化である。一試
合を通じていかにボールに
集中できるかが、特にポ
ストマンの自分にとっては
重要であるし、精神力が弱
くては弱気になってしま
い、何を

も後手後手にまわつてしま
うから。今自分に足りない
ものは多数あると思うが、
特に前に挙げた二つの強
化をはかるとともに、大
学では五部リーグではあ
るけれども自分なりに全
日本ジュニアに選ばれた
一員としての自覚をもち、
一生懸命頑張っていきたい
と思う。

選手 森山 透

三日間韓国のチームと練習
試合をしてみて、韓国の選
手は個人個人がしっかり
していると思つた。試合は
二試合とちよつとしか出
なかつたけど、反省する
べき点や自分にとって自
信のついた点などが少し
だけあった。そして今回
の遠征では、久しぶりに
コート外から試合を見た
けど、これもまた違った
面から見ることができた
ことが良かったと思つた。

韓国のチームはあのフ
ットワークを毎日やって
いるからだろうと思
うけど、瞬発力がとくに
すぐれていると思う。最
初、試合に出ていてルー
ズボールを取りに行つた
時、韓国の人はボールの
ある位置に二歩か三歩も
早くきていると思う。そ
れ以外にも速攻の出だ
しも速くて、少しでも気
をぬけば簡単にやられ
てしまふ。でも二試合
ぐらいいいかやつては
ないけど、韓国という
チームに絶対勝てない
とは思わなかつた。試
合をしていても、そん
な簡単にセットでは

点を入れられてはい
ないと思う。ただイ
ージーミスからの逆
速攻や、ちよつとした
気のゆるみなどで
ドイツがあまりな
つた所をやら
れていると思う。
だから、基本的
な練習で気をぬ
かずに行つたり、
イメージトレーニング
などで精神的に
強くすればイ
ージーミスも減
つていき、韓国
に勝てると思
う。

自分は今回の遠
征で得たものや
フットワークの
練習をやつた
大学へい
つても頑
張つてい
きたいと思
います。

選手 保科 秀和

今回、全日本
チームの一
員として遠
征に参加し
ていろいろな
事を学ぶこ
とができた
。韓国のチ
ームとは以
前一度、対
戦したこと
がありま
すがそれで
韓国の強さ
というの
はいやとい
うほど分か
つていま
した。韓国
にきて対戦
した4つの
チームも以
前対戦した
チームより
実力は劣つ
ていたが、
コンピ
プレー、パ
スワークの
正確さ、ボ
ールへの執
着心と最初
は日本チ
ームより数
段上だった
ように思
えました。
しかし、何
度か試合
をこなすに
つれてか
なりそれら
多くのこと
について韓
国のチ
ームに近づ
くことが
できたと思
います。

ただ一つ残念
だったのが、
試合に出
るものが出
ていないの
が、一
体になつて
試合に臨
めなかつた
というこ
とです。試
合に主力的
に出

てる者は、誰か
見ても声は出
たし、注文も
ありました。け
れど、試合に
出ていない
ものは、い
ざ交代しろ
といわれて
もそれな
りの仕事
ができて
いなかった
し、声も
出して
いません
でした。

試合を見て
いる時、自
分なりの
プレーはイ
メージし
て、いつ
でもでき
ると思つ
ていたの
に、試合
に出て
みると味
方が違
つた動き
をして、
そのプレ
ーをする
ことが
できま
せんで
した。そ
んな時
こそ、声
を出
して注
文しな
いとい
けなかつ
たの
に、自
分には
それが
できま
せんで
した。だ
から試
合にも
あまり
出ること
が
できな
かつた
し、い
いプレ
ーも
できな
かつた
のだと思
います。

他に驚いた
ことはい
えばや
つぱり
フットワ
ークの厳
しさだ
。と
にかく
韓国は、
こまか
いステ
ップで
いろい
ろな動
きに対
応でき
る足腰
が
でき
ていま
す、と
いう
印象
をもち
ました。

これから
自分は、社
会人
になつて
ハンド
ボール
をする
訳です
が、も
つとこ
の基本
である
フット
ワーク
を大事
にして、
この韓
国遠
征で味
わつた
くやし
さをバ
ネに頑
張りた
いと思
います。

選手 戸村 正樹

韓国へ行く
前まで練習
していま
した
が、ボ
ールを
使って
シ
ュート
やパス
などの
練習
ではな
く走り
込み
を重点
に練習
して
いたの
で、

韓国での試合では、自分の得意なプレーなどが出ず、自分でも納得のいくプレーが全然出なかった。デイフェンスは、横浜商工時代からオフェンス専門でやってなかったのでデイフェンスをどうやったらいいのかわからなくて、自分の思った通りにデイフェンスをやってみましたが、抜かれてしまっ、とうとう、自分の力を出せませんでした。

オフェンスで普段の自分の力を十分に発揮すること、デイフェンスで集中力がなく、守れなかったことが韓国遠征での試合の反省です。

韓国での練習と、韓国チームの感想は、練習はフットワークがとても大事だと言うことと、ステツプを速く正確にするように心がけてから練習をすることなど、今までフットワークの練習がおろそかになっていたことが一番練習で印象に残りました。フットワークでもっと自分のポディバランスを良くしたいと思います。

韓国チームを見ての感想は、一人一人、基礎がしっかりしていて、オフェンスでは視野が広くて、ボールをもらう前の動きなど、まだ僕達がまともにできてないプレーをしつかりやっていて、デイフェンスでは常に足を動かして、自分のマークをしつかり見ているのがすごいと思いました。

この韓国遠征では、いろいろ勉強することがいっぱいあったし、反省することもたくさんあったと思います。今度は、この悔やしさばねに、自分でも先生方にも納得のいくようなプレーができるように頑張りたいと思います。

選手 大野 順也

今回の韓国遠征について、韓国のハンドボールと日本のハンドボールのどこが違うかをこの遠征で学ぶことができました。

まず第一に気が付いたのは、フットワークの量や質の違いに驚きました。韓国チームの試合前のアップなどで見てはいましたが、実際自分自身でやってみると、どれだけものかわかりました。

韓国フットワークを少しだけ見て、へとへとになりました。こんなきついフットワークを、韓国のチームは、毎日一時間〜二時間はやっていると聴くだけでもぞっとしました。また逆に考えてみると、このフットワークが平気でできるようなになれば、韓国の選手に負けないぐらいのプレーができることがわかり、韓国で学んだフットワークを練習に取り入れていきたいと思っています。

そして第二に気が付いたことは、小学生がフロターとポストの2対2を練習している様子を見て日本との違いに気付いた。

そして第三に気付いたのは、精神的な面です。

例えば、相手に速攻にいかれておいつかないのでおいかげようとしれないのではなく、できるかぎりおいかけていけば、リバウンドが取れるかもしれない。そういうふうに、どんな場面にくわすかわからない。そのためにもどんなこまかいプレーでもまつにはいけないことがわかりました。

また遠征で学んできたことが、大学でいかせるように、自分自身の反省点などを考えこれからはばっていきたいと思います。

選手 池辺 健二

今回の韓国遠征に参加してみて、多くのことを学ぶことができ、また、体力のなさに気づくこともできました。現役の時でも自分は体力に自信があったし、引退してからも練習してたので、充分ついていけると思っていました。でも、

韓国のチームと試合をしていくにつれて、落ちていく自分の体力と対比的に、韓国の選手はスピード、体力ともに、自分の思ってた以上にすごかったです。

次に韓国チームとのちがいは、デイフェンスです。自分は高校1年生からデイフェンスだけで試合に出していたきました。だからデイフェンスは、思っていました。日本ではよいのですが、や

っぱり自分には体力がついていないのです。デイフェンスもだめていけず、最後にはやっぱり体力がなくなり、ばててしまいました。

自分はなぜこんなに体力がないんだらうとつくづく思いました。でも、二日目の終わりに、韓国のコーチからフットワークを教えてもらってからは、自分たちのフットワーク練習は韓国チームの十分の一もやっていないのに気がつき

ました。韓国チームは世界一のチーム。世界一のチームにならうと思つたら、小学生の時からフットワークの練習をやってないといけません。高校生からは始める日本と、小学校からは始める韓国とは、やっぱり9年間の差があらわれると思います。

選手 佐々木 教裕

自分にとって、海外遠征というものは、初めての体験でした。中学校の頃からハンドボールを始め6年目にして、日本以外のチームとやるのができてとてもうれし

いです。全日本ジュニアに選ばれることと、自分にとってはとても難しいことだと思っていました。初めて全日本ジュニア選考合宿に行った時は、自分より何人も上手な人がいっぱいいました。自分は、この中で受かるかどうか全然わか

りませんでした。自分の出来るかざりのことをしたと思います。その結果が出て受かりました。

そして、92年の冬に行われた選考合宿では、練習不足のためか、体が全々動かなかったため、実力が全然出ませんでした。そして1月に入り、韓国遠征のために毎日練習をして、体が動くようになるため努力しました。そしてよい

よ韓国遠征になりました。初めは全然自分がプレーできないのではないかと思っていました。韓国に来ていきなり試合でスタメンで、少しきん張りました。

韓国はフットワークがとてもいいので、デイフェンスがともうまいと思っていました。けれども、思ったよりもデイフェンスは強く

なかつたと思います。試合では練習の成果がでて、体が思いのままに動いて打つシュートは、全部入る気がしました。韓国のキーパーは、思ったよりもへたで、シュートを打たたくないという気持ちは全然出ないで伸び伸びやれたと思います。韓国はフエイント力はかなりすぐれていると思いましたが、けつして負ける気はしませんでした。そして、韓国No.1のチームは、

コーチの方々がアドバイスしたと、うりに動くと思つていいほど守れたし、点も取れたと思えます。最後に、自分にとって日本以外のチームと試合ができたこと、韓

国のハンドボールに対する熱心さがわかりました。これから自分も韓国人に負けない熱心さをもってがんばっていきたいと思います。

選手 河野 剛

今回、ナショナルジュニアとして、この韓国遠征に参加できたことは、非常にほこりに思いました。多くの候補者の中から選ばれて日の丸のついたユニホームを着てプレーできてよかったです。チームのメンバーとはまだまだコンビが合わないけど、一試合一試合する度に一人一人の個性がわかってきて、自分としては、うまく守れるようになったと思う。

自分は日本の選手になくて韓国の選手にあるものがいっぱいあったと思う。技術は、日本の選手も負けなくらいのものをもっていると思う。やはりフットワークなどいいものを持っていて、フェイント、デフエンスなど、今までに見たことのないような鋭さ、速さなどがあつた。二日ぐらいフットワークを教えてもらったけど、今までやったことのないようなきつい練習だったと思う。しかし、このようなきついフットワークの練習こそ、あの韓国の強さだと思つた。

ゲームをやっていて、気付いたことは、ポストの使い方、ポストプレーヤーのパワーなどを感じた。

どのチームも、ロングを打てるようなことのできないデフエンスの高さだったけど、そこをフェイント、ポストプレーヤーの位置取りなどのうまさ、分かつたと思う。そして相手のミスを狙くねらう速攻など、日本のチームにないものがあつた。

今回の遠征でいろいろあつたけど、良かった点はさらに伸ばし、悪かった点は少しずつ直して行こうと思う。

まだまだ、始まったばかりなので、これからの日本を背負っていくようにがんばりたい。

選手 長谷川 貴洋

2月18日から2月23日の強化練習会。18日には大阪の大和銀行体育館で練習しました。大阪で練習していたときは、正直筋力が落ちていたのがわかり、やばいなと思つた。まったくの練習不足というのがわかつたような気がした。

18日終わり、19日の朝大阪空港から日本を立ち韓国チームのいる所の体育館までバスで行つた。韓国チームとすぐ試合して思つたことは、日本人と全然ちがうバネがあると思つた。一対一で行つたあとのまわりの動きもすごく、見えていてパスがスムーズにとおつていた。

韓国の先生にフットワーク練習の最後に教えてもらったけど、い

つも使っていないような筋肉を使うので思うように動けなく、なさけなかつた。

次の日は、他のチームとの試合だった。きのうのチームとはちがつて一段とスピードが早かつたような気がした。このチームと試合をしているのを見ていて、学校でもっともつとハンドボールを勉強練習して、試合に出たかつたなと思ひました。

韓国に来ての一番強く心に残つたのは、スピード、ジャンプ力、すこさです。このスピード、ジャンプ力を身につけるには毎日のようにあの韓国の先生に教えてもらったフットワークをして、足腰をきたえなといけなかつた。ボールを使うのは、そのつぎだと思ふ。基礎が出てきてもないのにまだはやすぎると自分は反省しています。

選手 安藤 功規

今回の遠征に、僕は、期待と不安を抱きました。期待は、韓国のすごいシュートを取りたいということ、全国から集まつたすごい仲間とプレーすることでした。不安は、果たして自分のキーピングが通用するかどうかということだつた。

現役から離れて動けるか、試合の勘はにぶつてはいないか、ゴールの感覚はあるか、などなど色々

色の不安があつた。特にゴールキーパーは常にゴールに立つてシュートを受けていけないとベストの状態にもつていけないのは、よく分かつていた。だからとにかく頑張ろうと思つてみた。

初日の試合で、前半の途中から出してもらつたが、最後は緊張して、動きが堅かつた。後半はだいぶおちついて、よく見たら相手のシュートはたいしたことなくかつた。しかしポストの粘りとスカイプレイの上手さ、バックパスなどの正確さに驚いた。

二日目は、初日の疲れからか、動きがにぶかつた。試合に出ても自分で納得のいくプレーができなかつた。試合後のフットワークは前日のフットワークよりもきつくと、あまり動かないキーパーにはとてもつらいものでした。2対2や3対3の追いかけて、キーパーとフィールドの誇りをかけてやつて見事に敗北して、百回ジャンプしたときには、とてもつらく足が上からなくなりました。

最終日の試合は、韓国1位のチームとやり、結果的には負けましたが、後半の雰囲気はとても良かったと思う。午後の試合に出たが、午前とは比べものにならないほどひどく、高橋先生に怒られるのも当然だと思つた。自分としては最悪で、まともにシュートが止められなく、ずるずると最後までいってしまつた。このときは自分の力不足を痛

スポーツマンのベストコンディションをお約束する、チャンピアホテル。

<p>■料金(税込)</p> <p>シングルA.....7,980円</p> <p>シングルB.....8,180円</p> <p>ダブル.....13,900円</p> <p>ツイン.....13,590円</p>	<p>■料金(税込)</p> <p>シングル.....8,870円</p> <p>ダブル.....15,450円</p> <p>ツイン.....15,450円</p>
--	---



Shanpia



チャンピアホテル名古屋

〒460 名古屋市中区錦2-20-5 代表 ☎052(203)5858

●交通 地下鉄栄山線伏見駅より東へ徒歩5分
地下鉄栄山線栄駅より西へ徒歩8分 タクシーは名古屋駅より8分

■設備のご案内 ●ミーティングルーム ●全自動洗濯機・乾燥機設置 ●VHSビデオ設置

●チャンピアホテル 赤坂 ●チャンピアホテル 青山 ●チャンピアホテル 防府 ●姉妹ホテル KOLON HOTEL 韓国(キョンジュ市) 東京事務所(03)3586-7571

チャンピアホテル大阪

〒530 大阪市北区南扇町6-23 代表 ☎06(312)5151

●交通 新幹線新大阪駅からタクシーで10分
大阪空港からタクシーで20分(阪神高速) 大阪駅から扇町まで徒歩12分

感じ、とても情けなく思いました。今回の遠征は反省することばかりだったが今後の自分のプレーに生かしたいと思います。

選手 中野 陽治

今回、全日本ジュニアチームの一員として韓国の高校生と試合をしたり、練習をみたりして一番強く感じたことは、韓国のチームの方が日本のチームと比べて数段もハンドボールに取り組む姿勢が違うということでした。小学生の頃から僕達が練習するようなことをコーチが熱心に指導していたのを見て、これが金メダルを取るチームの指導方法だと感じました。実際にはゲームをやってみて思ったことは、韓国のチームと比べていた以上に互角に戦えたことが意外だったことです。それとディフェンスをやっていて気付いたことは、どのチームもパス回しが速く、ポストのボールをもらってからシュートに移る動作が、とてもすばいと思えました。しかし、一対一のフェイントは、奥田コーチのアドバイスもあって全然恐ろしくなりました。すると、どんどん積極的な気持ちになってパスカットもいけるようになりました。オフエンズでは、逆サイドをやりましたが、全然シュートが入らなくて、自分でもとてもくやしかったです。自分達のチームが速攻をする時

に、韓国のチームは、とても戻るのが速いといのも僕達のチームと違うところです。それに、韓国の人は、フットワークをとてとても重要なものと考えていることです。僕達の高校の練習で、いくら長い時間をかけているチームも30分もやっていないと思います。それに比べて韓国のチームは、最低でも一時間は、フットワークをやっているらしいです。いかに、フットワークが大切なものかということ

を改めて思いました。これからの僕の課題は、毎試合出してもらったディフェンスをもっと練習して完成品に少しでも近づけるようにし、さらに逆サイドでも自分のプレーやシュートがうてるように、この韓国遠征が、ただの遠征だけで終わるのではなく、自分のこれからのハンドボールに確実に良い影響を与えてくれて、後で絶対に良かったと思えるようにがんばります。

選手 米満 政佳

韓国は、ハンドボールが強い国だと知っていたのでどんなチームと試合をやるのか楽しみにしていました。

韓国に来て2日目に試合をしたが私思ってたほどすごくはなかった。しかし、日本に比べると一つの学校だけのチームとしてはとても強いチームだと思った。日本

と差があると思ったところは、まづ体つきが違うと思った。それは体がしまっているというかやせているとか細いと思った。なかにはがっちりした体つきの人もいたが、ただ細いだけではないところがありした筋肉がついているところが違うと思った。この筋肉はフットワークをついたものだと思う。

日本チームと韓国のチームでは身長差があったと思う。この遠征で試合をやった限りでははるかに日本チームの方が高かったと思う。でも韓国のチームは、身長差はあるがロングシュートを決める力を持っていたと思った。シュートの速さは、日本の高校生と比べてかなり速いと思った。そしてジャンプ力がある。フットワーク力があるので、身長差はあまり関係ないのだと思った。日本チームは、動きもあわせないと試合をしたわりにはよくやっ

選手 荒尾 祐治

今回、男子ナショナルJとして韓国の高校と試合をして、さまざまなことを身をもって感じる事ができました。それは、日本のチームよりはるかに足腰が強く、フットワークのちがいがでたことでした。

日本では通用したシュートやフェイント、ディフェンスなど、韓国のチームには、ほとんど通用しなかったということでした。サイドのポジジョンでゲームに出るのははじめてでした。今まで北陸高校では、この身長でフロウターをしていたことが、今日はサイドということ、何をどう動いていいのかわからず、チームに迷惑ばかりかけてしまっていた。韓国のチームと試合をして、これからの目標ができました。それは、まず基本にもどり一から出なおすということ。まず、韓国のチームに少しでも近づけるよう走り込みをして、足腰をきたえることからです。韓国にきて学んだフットワークなど、毎日かかさずやること。そして、韓国やその他の国のチームに負けなくらいのウエイトトレーニングをすることから始めたいと思います。

四日間、今までちがうチームだった人たちと、こうして一つのチームとなり、日本の代表として韓国のチームと試合をするなんて、夢にも思っていませんでした。僕なんか選ばれるわけがないと思っていたけど、こうして19名の中に選ばれて、本当にうれしかったです。そして、この四日間の韓国の遠征で、他国のチームとの試合に出られたことがとてもうれしかった。

選手 佐伯 充善

自分は二年前、石川選抜で韓国へ来て、死ぬほどつらい思いをしたことがあります。毎日必ず午前・午後、二時間づつフットワークやダッシュをやられました。初日の午前中だけで、バテてしまいました。こんなにきつい練習は始めての経験でした。

今回、ジュニアに選考されて、遠征先が韓国と書かれていたので悲しくなりました。しかし、やりがいがあった。

韓国のチームは足腰が強く、瞬発力もすごく、日本のジュニア選抜チームと試合をしても、少ししか力は劣らなかつた。もし今、韓国が選抜チームを作ったら、日本ジュニア選抜と試合をしたら、絶対負けてしまうと思います。小学生の練習を見ていたら、パスのフォームもきれいだし、フェイントもできるし、日本の中学生ぐらいのテクニックを持っていて、小学生なのに体罰を与えて気合の入った練習を毎日しているから、だと思ふ。日本のハンドボールは、小学生のクラグがほとんどないと思う。もつと盛んにして、韓国を見ならうところはいろいろあると思う。まず第一に足の配び方。オフエンズにしても、ディフェンスにしてもスムーズに足がでて、すばやくいきりかえしやあたりが速かつた。

もう一つは、パスの正確さだと思ふ。スカイプレーも簡単にやっていた。ラテラルパスの手の出し方も最短の位置に運び、スピードのあるボールを回していた。自分たちは誰もくずさず、個人プレーが多く、そしてミスの大半はパスミスだった。三角パスとか日頃から速く正確なパスを心がけるようにするべきだと思います。

選手 一元村 東弘

今回の韓国遠征では、3日間すべて試合がほとんどで、練習などが少なく、韓国の練習方法やトレーニング方法を学ぶ機会が少なかつたのが少し心残りです。

韓国の選手と全日本ジュニアの選手を比べてみると、まず瞬発力が違うと感じた。試合中でもルーズボールを取る時など、ほとんど韓国の選手にとられてしまう。練習時間外でも韓国の選手の方が速い。これは体力的より気持ちの入れ方の違いだと思う。コーチの方々に何度も言われたように、はじめの差だと思ふ。それは私生活にも試合中でも影響している。

次に、脚力の差を感じた。速攻が速く、帰陣が間にあわないことがたびたびあった。そして、足さばきもかなり速い。これはフットワークの練習の差で、韓国の選手

達は毎日フットワークの練習を1時間、あたりまえのようにやるらしい。が、日本の高校の中でそれほどやっているチームは数えるほどもないだろう。試合をやっていると、フットワークの重要さをよく感じる。

そして、細かいことを挙げれば、声がでない、ムードづくりが悪い、審判の笛を期待しすぎている、基本的なミスが多いなど、色々あるが、結局は精神的に負けていたと思ふ。韓国はアジアで最も強いが、その強いというのをはじめからうのみにしてプレッシャーを感じていては、勝てる試合も勝てないだろう。また、日本中から集めたチームで2点差で負けたというのに、2点差だろうが試合内容が良からうが、負けてしまったのはどうしようもない。コーチにも言われたが、公式戦であれば、次はない。試合内容が悪くても勝てば良い。勝ちにどんな欲になる、そういう心構えで今後の試合に臨みたい。

これから、この韓国遠征の経験を生かし、自分の足りない部分を反省し、外国のチーム相手に失点ができるだけ少なくできるように努力し、これからの試合に臨もうと思ふ。

選手 永野 貴裕

僕は1月に通知が来てから、渡韓を非常に楽しみにしていました。

仲間の素晴らしいプレーが見られるのも大きな楽しみでしたが、なにより自分のシユートが海外を相手に通じることが、一番の不安であり、楽しみでもありました。一日目はオロオロしてばかりで、右も左もわからない状態でした。一番大変だったのは、仲間内で満足にコミュニケーションがとれないことでした。以後、できるだけ名前を呼ぶようにして、もう大丈夫になりました。

二日目、野村君からの速攻パスで1点取ることができました。この1点は、多分一生忘れられないと思います。この時は、パスを出してくれた仲間への感謝と点を取ったうれしさで鳥肌が立ちました。

二試合目、泳薫高校の試合で一本自分なりのいいシユートを打てましたが、バーに当たり、はずしてしまいました。今思うと、なぜもっと慎重に狙わなかったのだろうと思ひます。やはりその時その瞬間を大事にしなければ、と痛感しました。

三日目、二試合目に使ってもらえましたが、監督の期待にそぐえず、自分のことが大嫌いになりました。全く同じオーバーフュエントで二回も抜かれてしまい、情けなくてしょうがありませんでした。前半最後の敵シユートは、顔よりももっと痛む場所に当たった気分でした。前半、共にゲームした仲間と一緒に叱られ、大変申しわけなく、恥ずかしくて涙が出そうになりました。

韓国での一番のおどろきは、やはり、フットワークの量でした。小柄な選手でも太ももは太く、しまっていました。トレーニングコートをしていただきましたが、ただだどしく、大きな差を感じました。

大学に入ったら一層練習にはげみ、もっともっと素晴らしいシユートを打てるようになりたいと思います。

最後に、御指導下さった監督、コーチのみなさんと頼もしい仲間たちに感謝します。ありがとうございました。

選手 野村 広明

僕にとって今回の海外遠征は始めてのものでした。高校の時からハンドボールを始めて3年目で他の国との試合ができてもううれしかったです。ハンドボール・ジュニアチームの一員にも選ばれると思っていなかったもので、喜びも倍増していました。国内では、背が小さくても少しはやっていたけれども、海外チームとの試合では通用しないと思ひました。いざ韓国にきてみると、驚くことが数多くありました。

まず始めに驚いたことは、フットワーク練習の多さです。僕のチームでは、フットワークの練習は、

20分程度しかなく、韓国式のフットワークをして正直に比べてきつかったです。しかし、このフットワークがいかに重要なものか、知らされました。

もう一つは、小学生のころからハンドボールをやっていたことですが、日本の小学生は、ハンドボールのことも知らない人が多いのに、韓国では小学生から2対2や、ナチュラルパスなどの練習をし、日本の中学生でもできないようなことをやっているの、日本とのちがいを大いに知らされました。

この遠征で感じた課題は、パワーアップからしていかなくてはならないと思う。正直にいうと韓国の高校2年生の人たちに、簡単にぬかれ、とめられる時などがあつたからです。

次は精神力・集中力の強化である。

またセットではサイド、センターなどをやり、自分は逆45度だったので攻撃などのかたが全然わかりませんでした。これから体力面、技術面、精神力、集中力などをみがき、今度の世界ジュニア選手権アジア予選に選ばれるように努力し、日本の役にたてるようにがんばっていきたいと思ひます。

最後に小西団長、高橋先生、岩本先生、松井コーチ、奥田コーチ、ハンドボール協会の方々、大変貴重な経験、数多くの御指導ありがとうございました。

★第24回全日本実業団★

男子トーナメント大会を

ふり返って

全日本実業団連盟副理事長

吉澤 力男

第24回を数えた全日本実業団ハンドボール男子トーナメント大会は、主催の日本協会全日本実業団連盟、主管の大阪協会、大阪実業団連盟の多数の大会役員

の運営のもとに開催され、全国予戦を勝ち抜いた32チームが参加し、盛況のうち無事故で幕を閉じることができた。今回の大会の目立った特徴について述

べると、大会のベスト8は、ほとんど同じ顔ぶれでシード権を独占して来たが、北陸、中国地区を中心に上位常連チームを脅かす勢力が台頭して来た。

(一)、例年優勝チームはほぼ大会前に予想できたが、本大会ではベスト4のどのチームにも優勝のチャンスがあったし、今後は、どのチームが優勝するか予想がつきにくくなった。

(二)、日本リーグ勢といえども、必ずしもベスト8に残れないぐら



日本電装・梅井のシュート

ードされる場面もあり、大接戦の末、1点差で3回目の優勝の栄に輝いた。

準優勝の日本電装は、優勝戦進出2回目であったが、今回も大漁を逸した。すっかりベスト4に定着しており、若さあふれる同チームに次回の優勝を旨とし精進してもらいたい。三位の北陸電力は、当大会で一番躍進し、雰囲気を高に盛り上げた殊勲のチームである。準決勝で優勝候補筆頭のトヨタ自動車を破った日新製鋼・呉に堂々と競り勝ち、次回は十分優勝を狙えるチームにまで成長した四位の大同特殊鋼・星崎は、2年連続の優勝戦進出をほぼ手中にしながら、大事な試合を落したくやしさを生かし、初優勝に向けて頑張っていた。

その他、私なりに印象に残ったチームをあげると、まず、日本リーグ勢3チームのシード落ちである。一回戦で敗れたトヨタ自動車、大阪ガス、二回戦敗退の竹芝精巧に日本リーグ中の元気が感じられなかった。今後の奮起を期待したい。

活躍が目立ったチームとしては、久しぶりに出場し、シード権を得た日新製鋼・呉、大阪ガスを破った伝統のチーム金沢市役所、終盤までトヨタ織機を苦しめた徳山曹達、竹芝精巧に善戦した豊田合成、ベスト8に復帰した優勝経験のある日鐵建材工業があげられる。又、

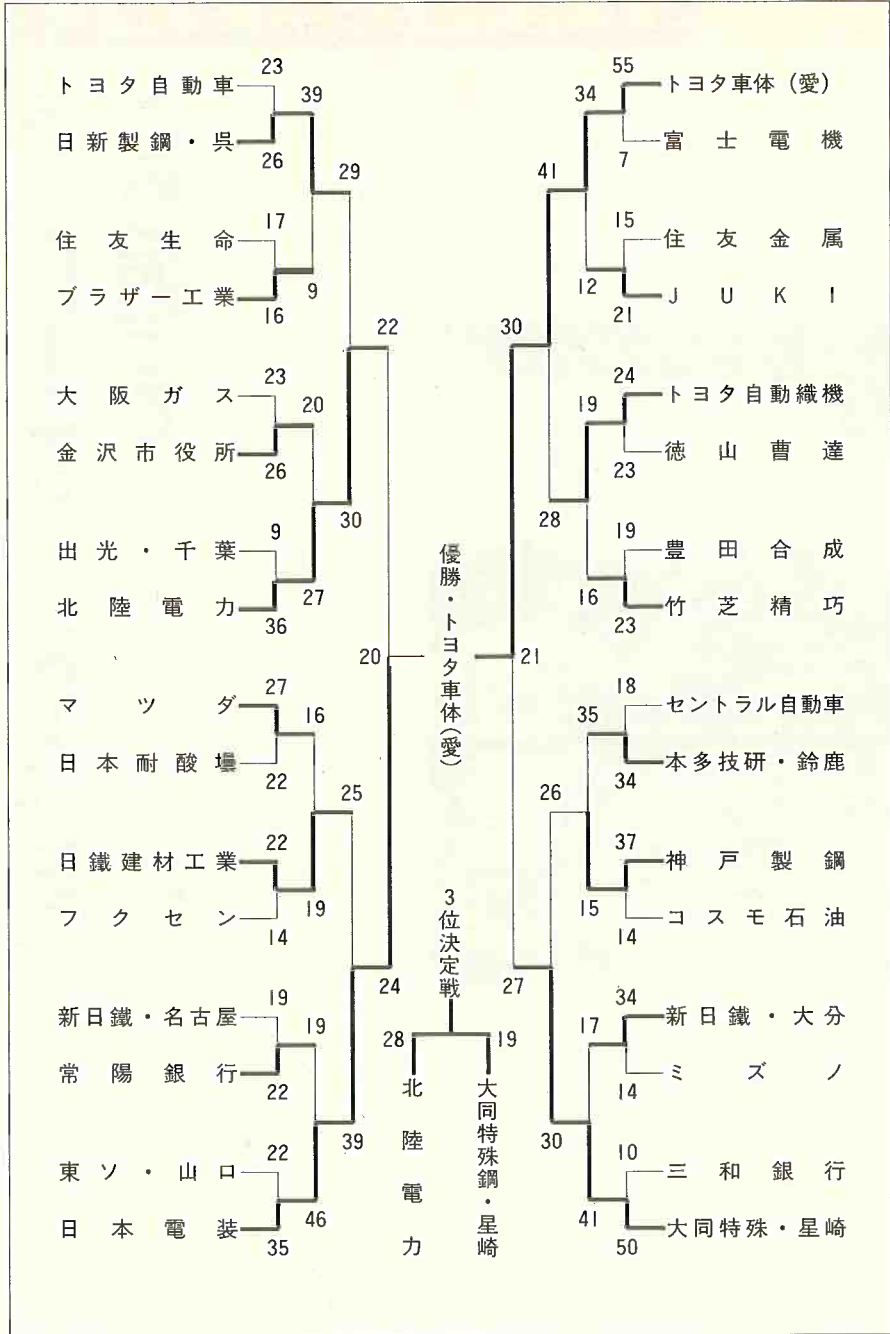
放課後の負けん気。

放課後になると、わたしのなかになかになかになっていた元気が目をさます。ボールをもつと、わたしのなかになかになかになっていた勝ち気がスックと背すじをのぼす。シュートを決めるとき、わたしのなかの負けん気がパチパチとスパークする。わたしはこんな自分が大好きなのです。負けん気をありがとう、モルテン。

株式会社 **molten**

株会社 東京都墨田区横川5丁目5-7 電話 03-625-7581
大阪・名古屋・福岡・広島・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフW.G.

第24回全国実業団ハンドボール男子トーナメント大会



ここ十数年低迷して来た神戸製鋼、新日鐵、大分に復活の兆しが見られた。いずれにしても、第25回神奈川大会では、どのチームが優秀な成績をおさめるかわからないくらい、参加チームが成長の跡を示した大会といえる。

大会の楽しみとして、参加チームの監督、主将および大会関係者が、一堂に会する懇親会がある。今回も大阪協会の企画により、植村日本協会常務理事、市原全日本実業団連盟理事長他多数の来賓を迎え、約110名の参加のもと盛大に催された。

神田大阪協会会長の乾杯で始まった懇親会では、津川元全日本男子監督、蒲生全日本男子監督、緒方全日本女子監督からの有意義な談話があり、全日本チームの現況と今後の抱負を聞くことができた。又、お互にチームの現況、悩み等を話し合ったり、明日の対戦のエネルギーを交換するなどほほえましい

光景があちこちで展開された。以上、参加チーム、関係者の努力により大いに盛り上がった大会であった。現在実業団チームは全国で80弱だが、更に底辺を広げ、当大会がますます発展・盛会になることを関係者の一人として尽力していきたい。

駅前モンブランホテル

〒450 名古屋市中村区名駅3-14-1
JR名古屋駅表玄関より徒歩2分
東洋ビル(東洋信託銀行、日本航空)隣
☎052-541-1121
FAX052-541-1140



伏見モンブランホテル

〒460 名古屋市中区栄二丁目2番26号
地下鉄伏見5番出口(科学館方面出口)
徒歩2分(御園座東)
☎052-232-1121
FAX052-204-0256

第1回レフェリー・シンポジウム

全国から100名が集まり盛大に

審判委員長 大塚 文雄

「レフェリー・シンポジウム」は全国から約100名のエキスパートを集め、平成5年2月20日(土)・21日(日)の両日、東京・国立オリンピック記念・青少年総合センターで開催された。

開催の目的は「審判技術を中心に、審判界を取り巻く諸問題を分析・検討・研究することにより、ハンドボール界へ反映させていく」との主旨で開催した。

■第1日目

挨拶：中沢 重夫専務理事

日本ハンドボール界の現状と将来の発展について

冒頭基調講演：大塚文雄審判委員長

長

1 ルールについて

2 レフェリーの研修について

3 レフェリー活動の実情

4 レフェリーと監督・コーチ

の協調

バルセロナ・オリンピック報告：後藤登ルール研究委員

1 ファースト・ミーティング

からエリアス IHF/PRC)

(1) 競技・審判上の注意

(2) 特に注意すべき6ポイント

2 大会中のミーティング

(1) 全体的な注意点・アドバ

イス

(2) エリアス氏の個人的なア

ドバイス

7 試合における立会人制度

ハンドボールの審判の難しさは何

(3) 段階的罰則の適用(ボール

スタット IHF/PR

C)

(4) 再確認しておきたい事項

3その他

VTRを用いたレフェリング技術

の分析：江成元伸ルール研究委員

1 オーバーステップ

2 チャーピング

3 検討すべき事項(GKのと

びだし等)

4 罰則

映像を見ながら全員の研究

・協議

研究・協議・討論

司会 江成元伸ルール研究委員

★講演についての質問・協議

★主としてルールに関する統一

見解について

■第2日目

指導者から見たレフェリング：大

西武三指導委員長

1 ハンドボールの振興とレフ

エリーの位置

2 レフェリー・指導者・プレ

ーヤーの相互信頼

3 ハンドボールとレフェリー

4 ハンドボールと指導者

5 指導者から見たレフェリン

グ

6 レフェリーウォッチング(ベ

ストレフェリー・ワースト

レフェリー)

7 試合における立会人制度

ハンドボールの審判の難しさは何

か：清水宣雄ルール研究委員

★他のゴール型球技との比較

らの研究

パネラーとの討論

司会 江成元伸ルール研究委員

★速攻時のGKのチャージの見

解

★ハンドボールの理念について

の討論

★ワーストレフェリーからノー

マルレフェリーになるには。

★指導者(監督・コーチ)とレフ

エリー

★審判の広報活動について

今回は、指導委員会から大西委

員長にご出席をいただき「監督・

コーチの立場から見たレフェリン

グ」の話もあり、自由に討論でき

る雰囲気で大いに盛り上がった。

この熱気を平成5年度は「レフェ

リーと監督・コーチのシンポジウ

ム」に繋げていきたいと思う。

参加者は北海道から九州まで多

数お集まり頂き、各都道府県協会

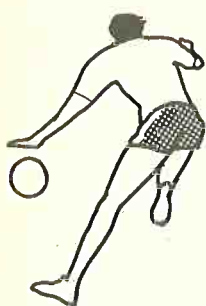
では参加者に対して多大なご支援

を賜ったと聞いております。誌上

をお借りしましてここに謹んで御

礼申し上げます。今後とも宜しく

お願い申し上げます。



A4版84ページ・カラーページにスーパーショット満載！
月刊誌入スポーツイベントハンドボール
毎月20日全国書店にて発売中！

1冊¥600 年間購読(1年間12冊・¥7,200/半年間6冊・¥3,600)

(株)スポーツイベント 〒101 東京都千代田区神田小川町1-9 川上ビル3F ☎03-294-5231(代)

レフェリーシンポジウムに 参加して

大阪府協会 岸本 光夫

待望のシンポジウム開催の知らせに胸を踊らせて会場へ向かうと、全国から集まった多数の参加者に驚愕し、レフェリーに熱意を持つ友を見て勇気づけられました。生来、感想文なるものは苦手であり、乱文をお許し願ひ、私なりに本シンポジウムを振り返ってみました。思います。

レフェリーにとっても人格は非常に重要であり、人格を高めていくためには、その構成要素である「知性・理性・感性」のバランス良い積み重ねが必要だと予て考えていました。

この三つの性の重要さは、大塚先生と大西先生の講演の中でも強調されており、素晴らしいレフェリーにとって必要不可欠であると痛切に感じました。

視覚から入る情報をルールと対照しながら認識・判定にまで構築する精神的機能は、知的能力に相当すると考えられます。従って知性の向上のために、観察能力に優れ、かつルールに精通していることが最低限必要であるのは自明の理と思われまふ。両先生がより重要視されていたのは、理性と感性であるように感じました。ハンドボールの理念と基本原理について

の概念的思考の能力は、まさしく理性であり、また「レフェリーの心得十ヶ条」の半数は思慮的に行動する能力によるものと思われまふ。技術的戦術的行為の失敗と基本原理に背く行為を区別するべきであり、そのためにはハンドボールの概念について、字面だけでなく、さらに深く熟慮する必要があると痛感しました。

スリリングでエキサイティングなゲームによって導かれる精神体験が感性と考えられます。しかし感性が乏しい場合、選手達が作り上げた素晴らしいプレーを笛で潰してしまふ場面を度々見受けまふ。一方、緊迫感の漂う好ゲームのプレーの谷間にレフェリーのユーモアを垣間見るとき、次のナイスマレーに一層の感銘を覚えます。どのようなプレーがフライングプレーで人の感動を呼び起こすのかを、改めて考えていくことが肝要と思ひます。

この三性について個々に論じることは可能ですが、実践の中では相互に関連しているようで、いずれも低いレベルにある私は、ハンドボール界だけでなく、日常の社会生活でも努力していこうと肝に命じています。

大西先生がご指摘されたように、欧諸国の文化の中で生まれ育まれてきたスポーツを、薄い一冊の日本語訳ルールブックですべて解決・処理するのは到底不可能と思われまふ。例えば、相撲の「けたぐり」「浴びせ倒し」などを英訳・独訳するのが困難であるのと同じと説明されまふ。

従って、言語学的研究のみでなく、背景となった文化についても理解を深めていくことが大切と考えられまふ。

自称科学者の私にとって比較的接し易かったのが、江成先生と清水先生の講演でした。画像によりプレーを解析し、得られた情報を統合して再構築し、総合的な観点からプレーおよび判定の評価法を検討しようとしていました。しかし私には時間が足りず、再構築までが精いっぱいでしたので、配布して頂いたビデオをもとに判定を規定する要因について総論的に考察していきたくて考えています。またハンドボールの審判の難しさのひとつは、ファウルの軽重を判断し、かつ退場宣告の内的プレッシャーを受けることであるとのことでした。

この問題を克服する一手段として、明確な判定基準と強靱な精神力が必要と考えられまふ。

後藤先生からは、オリンピックでの様々な情報を拝聴し、中には私の考えはやはり正しかったと、

自信と勇気を与えられた内容もありました。

能力と時間の不足からまとまりが悪く、また演者の先生方の真意に遠く及ばない点が多々あると思ひますが、自己反省をもとに探求

レフェリーシンポジウムに 参加して

愛知県 小林きよみ

今回の第一印象は、参加者名簿を見て「ほとんど教員だなあ」ということです。なぜでしょう。私は市の職員であります。市内のスポーツ行事を見渡しても、ハンドボールほど教員に頼っている種目はない、ということに共通点を見つけた気がしまふ。全国的に、ハンドボールの審判は学校の部活動の顧問若しくはどこかの物好き、という公式が成り立っているのでしょうか。現役の選手の方々は、教員にならない限り、審判とは無縁と思つていられるのでしょうか。審判とはそんな別世界のものではな

を重ねて来年のシンポジウムに参加したいと考えています。

最後にになりましたが、本シンポジウムを企画・主催、そしてお世話していただいた諸先生方に深甚なる謝意を捧げまふ。

今、実業団における審判の育成が図られているようですが、たくさんの実業団出身審判の登場を期待しています。

選手も指導者も、そして審判も、ハンドボール好きの集団であることに変わりありません。今度は是非、選手も指導者も審判も一緒に参加できるシンポジウムの開催を希望しまふ。

このシンポジウムで感じたのですが、審判は皆、ハンドボールが大好きなのです。よいゲームづくりにかかわることに、やりがいを感じるので。よいレフェリングをするために、情報交換、コミュニケーションを求め、全国からはるばる東京に会したのです。現役の選手の方々は是非このことを

それから、もうひとつ希望ですが、こんなことを言うとしかられるかもしれませんが、何かの大会の最後のイベントとして、審判団の試合を行ったらどうでしょうか。学校の支部大会などとはときどき行われているかもしれませんが、少し大きな大会でも、コミュニケーションに役立つと思うのですが

レフェリーシンポジウムに 参加して

愛知県 小林ますみ

この二日間で強く感じたことを一つあげると、それは「コミュニケーションの大切さ」です。

シンポジウムの主催者側からは、できるだけ多くのレフェリーの意見を聞くという姿勢がうかがわれ、大変ありがたかったです。これも、日本協会とレフェリーとのコミュニケーションを大切にしようという考えの表れでしょう。

一方、話題の中心は、よいレフェリーとは何かという点にあったと私は受け取っています。ルールの解釈に幅があるために、レフェリーによって笛が異なり、それがチームや観客に不信感を与えます。それを防ぐためには、ゲームを巡るすべての人の共通理解が必要です。レフェリーの待遇は決してよいとは言えません。それでもあえて東京に出向き、待遇向上を訴えるよりも、ベンチやプレイヤー、観客に納得のいく笛を吹くための話題に終始しました。それだけ、今、レフェリー間のコミュニケーションが不足している、ということでしょう。

今回は、レフェリー、日本協力のコミュニケーションをいくらかとることができました。トレーナーサイドの考え方も知りたいとい

う声もありました。これをきっかけに、様々な形で、レフェリーだけでなくトレーナーサイドやプレイヤー、その他いろいろな人々とコミュニケーションをとる機会が増えていくことを期待しています。

レフェリーシンポジウムに 参加して

千葉県 滝川 一徳

2月20、21日の両日に全国各地より日頃からレフェリーとして御活躍なさっている方々を集め、第一回レフェリーシンポジウムが開催されました。

第一日目は大塚審判委員長の冒頭基調講演から始まりました。その中で先生は、レフェリーとは人格が重要であり、常に研修・トレーニングを積み、ルールの完璧な知識とその解釈について確実に笛に表せられること、実に、レフェリーとしての特質、人格、精神面の一層の安定を図り、レフェリーがコートに立つただけで、すでにプレイヤー、監督、コーチ達の信頼感が高められるようにならなければならぬとおっしゃっていました。又、後藤、高田両先生方のバルセロナオリンピックの報告があり、男子決勝を吹いたスペイン

が、現在「女性レフェリーの育成」が課題の一つとしてあげられているそうです。これも単にレフェリー界のみの課題ではないと思

います。コミュニケーションの輪を広げることに、「私もレフェリーをしてみよう」と思う女性がたくさん出てくるとよいと思います。

のペアが、立派にゲームをまとめあげ、感涙を流しながら花道を引きあげてきた姿に感動されたことや、オリンピックでの経験をもとにした後藤先生の講演は、大変貴重なものだったと思います。次に、江成先生より、1991年のアジア予選のビデオからいくつかの場面をとりあげ、その中のプレーについて、自分ならどう対処するかのアプローチがとられました。そこで感じたことは、参加者78名全員が、必ずしも同じ判定ではないということでした。特にきわどいオーバーステップやチャージング、さらには罰則の基準や、エリア付近のシユートに関する判定については、数多くの議論が交わされました。又、各種全国、ブロック大会での事象がとりあげられ、それらについての熱のこもった議論も

なされていきました。さらに立会人制度の確立や地方よっての笛の違いについての意見もあり、一日も早く笛が統一されることが、参加者共通の意見だったように思います。

第二日目は、大西指導委員長より、指導者からみたレフェリーングというお話があり、それについての討論となりました。特にその資料の中で指導者からみたベストレフェリー、ワーストレフェリーの例は、参加者のほとんどが、時には指導者として、時にはレフェリーとしてハンドボールに接しているわけですから、非常に興味深いお話だったと思います。そこでは、やはり指導者、レフェリーというお互いの立場を理解しながら、ハンドボールを発展させていこうということが、参加者全員の考えであったと思います。そのために、大西先生がおっしゃったように、選手のプレーを生かすも殺すも、レフェリーのハンドボールに対する理念と技術であり、しかしその技術とは神業であるから、レフェリーは常にハンドボールの現場に接し、訓練を怠らないよう努力し、またそれを取り巻く人々は、レフェリーの立場の理解に努め、レフェリーの成長を暖かく、時には厳しく見守っていくことが必要であるというお話は、一個人としてもそれぞれの立場で努力していかなければと感じました。また、



昨年インカレでのゴールキーパーの飛び出しの例について、危険なプレーか、それともチャージングなのかについても議論がなされ、プレイヤーの安全を守ることも、レフェリーとして大切ではないかと感じさせられました。

このシンポジウムに参加させて戴き、一番感じたことは、それぞれの方々が、それぞれの立場で日本のハンドボールを発展させようという努力し、考えていらつしやることではなかったかと思えます。自分も指導者として、あるいはレフェリーとしてまだまだ未熟ではありましたが、このシンポジウムで勉強させて戴いたことを生かし、頑張らなければならぬと考えました。

最後に、このシンポジウムを開催し、大変実のあるものにして下さった大塚先生はじめ、関係各位の方々にお礼を申し上げ、今後ともこのような会を是非とも開催して戴きたいと思ひます。

ケルン大学について

ドイツの 田口 隆

今回は私が通っているケルン大学についてお便りします。

ケルン大学は、ケルンの中央駅から路面電車を利用し、約20分ぐらいのところ、閑静な住宅街に隣接したところにあります。近くには住宅街の他にサッカーチームとして有名な1FCケルンのホームグラウンド、そして数々のスポーツクラブがあります。休日にはドイツ人が大勢散歩をしに出かける(ドイツ人は散歩が好きで)大きな公園等、とても環境のよいところです。

学校内には学生寮、大小様々な体育ホール、教室、そして室内陸上競技場など、ありとあらゆるスポーツが出来る施設が整っています。

学期は4月から始まる夏学期と、9月から始まる冬学期に分かれています。私は11月の中旬にドイツに来ましたので、冬学期の途中から参加しております。次に授業の様子といえば、私自身、大学は体育学部でなかったため、体育の授業といえば、各競技毎にゲーム中心で、本当に概略のみの授業しか経験していなかったたので、ドイツで本格的に学校でのハンドボール

の授業を大変楽しみにしていました。ある授業では、GKのトレーニングについて行われました。アップから始まり、GKとして必要な柔軟体操、そしてフットワーク、反射的に反応するトレーニング、位置どり、ボール出し、GKのあらゆる動作について全員がGKになり学びました。その他、CPに

関してもそれぞれ各ポジション毎に授業が行われます。例えばサイドシューターに關しての授業では、ボールを取る前の位置どり、エリア内への飛び込み方、飛び込む角度、そしてシュートテクニク(逆スピン、ループシュート、バックシュート等)の授業が行われました。

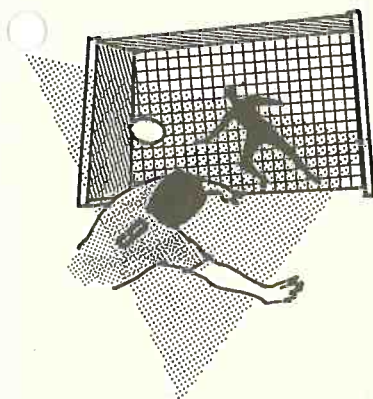
技術的には未熟な学生たちも、理論的には、この様な授業を受けているため、よく理解している様です。

後日、私が仲良くしている一人の学生の家へ行くと、その時の授業(サイドシューター)をまとめであるものを見せてもらいました。すると授業で行った事はもちろんそれ以外の事もしっかりとまとめてありました(例えば、逆スピンの時のボールの握り、ボールを落とす位置等)。私は、この学生だけがそうであるのかと思ったら、他の学生にも同じ授業の時のものを見せてもらいました。すると、この学生もしっかりまとめであり、驚きました。と同時に、第一線でプ

レーしている人はもちろんの事、それ以外にもしっかりとハンドボールの理論が浸透している事にも感心させられました。

学生の中には教師を目指す者、スポーツクラブでのトレーナーを目指す者、スポーツジャーナリストを目指す者等、目指す進路は様様であります。ドイツのハンドボールを学校でしっかりと学んでいる事を考えれば、そこで学んだ人達がナショナルチームであろうが、町の小さなクラブチームであろうが、又、観る側の人であろうが、基本的には同じハンドボール理論を持っている事になります。

選手育成の面を取れば、指導者によりオリジナリティな部分ではいろいろと違ってくるが出ていても、基本的な考え方は皆同じなため、選手が実力に応じ、自分がどこでプレーするかという場合にも戸惑いはなく、スムーズに行くのではないのでしょうか。日本でもナショナルチームを強くしていくためには頂点強化はもちろん今迄も、今もしっかりと行われていると思います。その基となるところでのシステム作りが早急に積極的に行われないと、当り前の様にそれが行われているヨーロッパの各国にどんどん取り残されていられる可能性も大きいのではないかと思います。今回、この様な事を今迄にも増して痛感しました。



NEXT ONE—セノーイズム

限りない可能性に挑戦し、感動を勝ち取っていく——セノーの仕事もまた、スポーツそのものかもしれない。妥協のないセノーの“NEXT ONE”にご期待ください。



Senoh®

セノー株式会社
東京都千代田区神田司町2-7
☎03-3292-5411

日本ハンドボール協会検定品製造工場

優秀選手

■男子の部

位置	氏名	所属大学	学年	出身高校
GK	*荒木 進	早稲田大学	4	熊本市立商高
GK	*長嶺 重信	日本体育大学	4	小 祿 高
GK	堀 憲司	中部大学	4	倉敷工業高
GK	四方 篤	大阪体育大学	2	北 陽 高
CP	福井 康弘	函 館 大 学	4	日大明誠高
CP	*岩本 真典	早稲田大学	4	熊本市立商高
CP	*中野 一隆	早稲田大学	4	桃山学院高
CP	藤本 元	筑波大学	4	東邦大学附高
CP	*鎌田 照幸	筑波大学	4	天 草 高
CP	白石 淳	新潟大学	4	富 岡 高
CP	*日原 正和	名城大学	4	春日井東高
CP	*松原 晋也	大阪体育大学	4	育 英 高
CP	*森本 彰宏	大阪体育大学	4	北 陽 高
CP	山内 茂樹	大阪体育大学	4	岡 崎 西 高
CP	*森岡 健二	大阪経済大学	4	上 宮 高
CP	鈴木 和也	大阪教育大学	4	桜 台 高
CP	清水 亮	福 岡 大 学	4	久留米工業大附高
CP	荻本 将勝	国土館大学	3	大分電業高
CP	*木浪 達文	国土館大学	3	青森荏原高
CP	*冨本 栄次	日本体育大学	3	日 体 荏 原 高
CP	*小沢 勝利	日本体育大学	2	横 浜 商 工 高
CP	*広政 宜孝	筑波大学	1	下 松 工 業 高

■女子の部

GK	今野 清美	東京女子体育大学	4	聖和学園高
GK	小前田たまき	筑波大学	2	小松市立女高
CP	山田 真紀	日本体育大学	4	東 海 女 高
CP	桐谷 律子	日本体育大学	4	佼 成 女 高
CP	福西 文子	日本体育大学	4	宜 真 高
CP	本間 尚美	東京女子体育大学	4	藤 村 女 高
CP	野村由加里	筑波大学	4	三 井 高
CP	陰 治恵子	中京女子大学	4	名短大附高
CP	国枝 千明	中京女子大学	4	名短大附高
CP	柿並美津子	大阪体育大学	4	鈴 蘭 台 高
CP	西村 聖子	武庫川女子大学	4	四天王寺高
CP	儀保 千夏	福 岡 大 学	4	具 志 川 高
CP	飯田 雅美	東京女子体育大学	3	名短大附高
CP	大林 まり	武庫川女子大学	3	夙 川 高
CP	何 剣 萍	日本体育大学	1	上海体育運動技術学院
CP	稲次 彩	筑波大学	1	宜 真 高
CP	甲斐万起子	福岡教育大学	1	大分雄城台高

(※印は全日本学生選抜出場者)

全日本学生ハンドボール連盟

平成4年度優秀選手決定!!

1月30日に行われた当連盟総

合役員会において、平成4年度の

優秀選手の選考が行われ、別掲の

ような各選手が決定致しましたの

で、ご報告申し上げます。

従来は、各地区学生連盟、東日

本及び西日本の両学生選手権大会

並びに全日本学生選手権大会のみ

の優秀選手の表彰はありましたが、

連盟として年間でトーナルで見た

優秀選手の表彰を行う事がありま

せんでしたので、本年度より「年

度優秀選手」の表彰を行う事とな

り、今回、第一回目の年度優秀選

手の選考を行いました。

合宿・国内外遠征から
ご家族の旅行まで
なんでも手配致します



明日の勝利の為に
私達が役立ちます

株式会社 エモック・エンタープライズ

〒105 東京都港区西新橋1-17-4 Y・Kビル1F

TEL: 03-3507-9777 FAX: 03-3507-9771

運輸大臣登録一般旅行業 第1144

一般旅行業務取扱主任者 田川正明

検定業者名簿 (順不同)

■ボール

(株)モルテン	〒130 東京都隅田区横川5-5-7 TEL 03-3261-4551
明星ゴム工業(株)	〒733 広島市西区楠木町3-11-2 TEL 082-237-5145
タチカラ(株)	〒111 東京都台東区松ケ谷1-11-7 TEL 03-3842-6811
ミズノ(株)	〒101 東京都千代田区神田小川町3-22 TEL 03-3233-7134

■ゴールネット

テイエヌネット(株)	〒136 東京都江東区亀戸4-45-15 TEL 03-3637-3232
松本製網(株)	〒581 大阪府八尾市福万寺町4-72 TEL 0729-22-3217
(株)アシックス	〒564 大阪府吹田市豊津町2-3 TEL 06-385-1111
高須賀(株)	〒136 東京都江東区亀戸3-43-24 TEL 03-3684-7791
(株)寺西喜商店	〒581 大阪府八尾市福万寺町4-31 TEL 0729-22-3210
(有)ミセキネット製作所	〒340-01 埼玉県幸手市中1-7-4 TEL 0480-42-0379

■ゴール

イノコ(株)	〒454 名古屋市中川区山王4-6-34 TEL 052-331-3311
(株)都村製作所	〒766 香川県仲多度郡琴平榎井590 TEL 0877-73-2251
栗林体器(株)	〒877 大分県日田市玉川69 TEL 0973-22-5151
三和体育(株)	〒332 埼玉県川口市緑町9-15 TEL 0482-56-2368
(合)上坂鉄工所	〒130 東京都墨田区本所4-28-8 TEL 03-3622-8171
(株)小川長春館	〒721 広島県福山市引野町5-4-23 TEL 0849-41-0230
(株)舟岡製作所	〒130 東京都墨田区石原4-34-2 TEL 03-3624-0551
セノー(株)	〒101 東京都千代田区神田司町2-7 TEL 03-3292-5411
(株)中村体育	〒386-01 長野県上田市国分仁王堂1190-4 TEL 0268-22-0896
(株)藤栄	〒110 東京都台東区入谷1-9-10 TEL 03-3786-0641
赤羽根工業(株)	〒343 埼玉県越谷市増森207-1 TEL 0489-65-1571
(株)ニシオカ	〒558 大阪市住吉区南住吉3-17-5 TEL 06-693-5756

競技用品の

検定について

ハンドボール競技に用いる用具については皆様ご承知の通り「財団法人日本ハンドボール協会競技用具検定規程」で細かく規程されています。その第1条に「ハンド

ボール競技に用いる用具は財団法人日本ハンドボール協会の検定を受けたものでなければならぬ」と決められています。現在、当協会が認めている検定

久し振りの会議であった為、双方から多くの問題が提起されました。この解決のため、品目別の分科会を設けることが決定しました。今後は、より安全に、より高度なプレーが出来るよう、そしてハンドボールの普及に役立つよう検討を重ねると共に「競技用具検定規定」が遵守されるよう努力して行きたいと思っております。

当協会の検定品業者は左記の通りです。用具の購入はこの業者の製品を必ずご指定下さい。

県協 会だより

千葉県ハンドボール協会

千葉県ハンドボール協会は創立40周年を迎えました。昨年、一昨年と2年がかりで記念行事を実施して来ました。一昨年の12月、高校1、2年生で結成した県選抜の男女30名と役員10名で台湾に親善試合に行きました。この行事は生徒達に夢を持たせるために実施したわけですが、台北、台中でそれぞれ男女とも2試合ずつ計8試合行ない、男子は3敗1分、女子は2勝2敗という結果でありました。高校生には言葉も習慣も違う相手と試合をすることにより、国内での試合は余裕をもって取り組む事ができると私は確信しました。

年は明けて、いよいよこのメンバーを中心として平成4年が始まり、昭和が全国選抜大会第3位、夏のインターハイでは市川高校が準優勝、昭和が選抜に続いて3位となり、昭和48年の千葉県体から約20年、協会の力をもう一つアップしたい、現状維持でなくいつも前向きにと皆んなが努力する集団なればと思っていました。そして昨年の10月の山形国体に昭和51年の佐賀国体以来の少年男女アベツ



ク出場となりました。今年の選手もスタッフも生命がけて挑戦してくれました。我々応援団はノンビリ試合観戦などしてはいけな私達もいっしょになって試合に挑む気持でないと反省しました。試合結果は少年男子は3位、女子は4位で「佐賀国体」以来の16年ぶりの天皇杯6位になり、皇后杯も7位に入賞できました。この時の閉会式に参加して感じた事です、年々式が立派になり、特に今年の少年の部の閉会式は非常に驚きと同時に生徒達にとって二度

と忘れる事のないすばらしい閉会式を企画していただき、山形県の尾花沢市の皆さんに深く感謝しております。国体入賞の結果を得て、10月30日に創立40周年のまとめである、40周年記念式典」を船橋で催しました。昭和48年までの千葉県の歴史は、大会に出場したとか、大会を開催したとかの記録で、48年以降は関東大会や全国大会で入賞できるようにになり、この20年間の諸先輩の努力に感謝し、お礼を申し上げると同時に創立41年目から50年60年に向けて千葉県若手ハンドボーラーに夢を描いてもらって、その実現に向けて歩き出してくるよう願う「記念式典」でもあります。

これからは歩く方向と道をどう見つけて行くかはそれぞれにありますが、サッカーに進むか、ラグビーに進むか、日本ハンドボール協会は方向をはっきりとさせなくてはならないのでは無いかと思えます。時にはバスケット方向に走っていた時もあります。

それには何を企画すればよいか。千葉県で何が出来るか。実現させたいのはぜひ世界選手権と考えます。日本のハンドボーラーの全てのエネルギーを結集して、世界一のプレーを生で観戦し、そのすばらしさを自覚すべきです。我々千葉県のハンドボーラーも微力ながら力になりたいと常日頃胸の中に温めております。

昨年、千葉で東日本インカレを運営しました。県ではチャンスがあれば全国大会を、又、海外親善試合をと考えております。なぜかは、県内の競技レベルがアップするし、審判技術もかならず向上して大変な分だけ千葉県にエネルギーが生まれるからです。この大会の観客の中から聞こえて来る話の中に「みんな同じハンドボールでおもしろくない」と言う声です。韓国が世界のトップレベルに昇り詰めた方法かもしれないが、これからのハンドボールを考えると、見えて楽しい、変化があつて意外性がある、試合を見て燃えるものを感じるとか、何かを与えなくてはほんとうの意味でのハンドボール時代の到来は無いのではないかと思います。

新しい時代を作ってゆくの、新しいひらめき。そして、ひらめきを実現してくれる素材が求められます。常に新しい技術で新しい夢をかなえる素材をお届けしてきた日新製鋼。これからも時代に応える新しい素材をみつめてゆきます。

(文責 理事長 稲生 茂)

新しい時代を作ってゆくの、新しいひらめき。そして、ひらめきを実現してくれる素材が求められます。常に新しい技術で新しい夢をかなえる素材をお届けしてきた日新製鋼。これからも時代に応える新しい素材をみつめてゆきます。



明日の素材をみつめる

日新製鋼
 東京都千代田区丸の内3-4-1
 (新国際ビル) ☎03-3126-5511 千100

県協会だより

石川県ハンドボール協会

本県ハンドボールの発足は、昭和21年12月杉本藤太郎、中本文雄理事長のもとに産声をあげ、本年で45年を経ようとしています。

当時は、戦後の虚脱と混乱の中で、国民に勇氣と希望を与え、新しい日本の建設を旨として、国体の開催が決定されていた。国体の開催を控えていてもハンドボールは無知に等しく、隣県富山より嶋田新太郎、島田重春の両氏と日本協会よりの場益雄、外山雄二の両講師を招き、競技の基盤を創り今日の隆盛に至っています。

11人制における全国大会の成績は今一步の感がありました。第2回国体(金沢)では学生女子が第2位、第4回国体に高校女子の小松高第3位、第4回西日本大会松任高(男子)第2位、第10回全日本高校で羽咋高(女子)の第2位と、高校女子の活躍の跡がみられた。尚、昭和26年小松市において全日本総合が男女17チームの参加の基に開催し、競技の向上にと努めて来ました。

昭和38年7人制の移行により、登録者数等は直ちに変動は見られ

ないものの、除々に新しいチームの誕生がみられた。奥能登の珠洲実高、全国高校女子界の雌小松市女高も昭和40年に全国制覇を旨とし創部となる。

厳しい練習の中で真なるハンドボールと人間性の完成を旨とした谷口俊春(現小松市女校長)氏の指導は、本県の競技の向上発展に多くの教示を与え、次の各種全国大会の上位入賞へと受け継がれている。以下全日本大会の主な成績を列挙してみます。

昭和48年小松市女全国高校選手権に初優勝。国体6回、選抜4回、高校選手権6回と18回の全国制覇を成し、昭和56・61年三冠達成している。全国中学大会では昭和57年芦城中が男女アベック優勝。翌年寺井中女子の優勝、昭和61年芦城女子が再度優勝している。クラブ選手権では、小松クラブが女子で平成元・2年と連続優勝。男子3年と優勝杯を手中にしている。昨年は国体成年2部優勝、第43回全日本総合に北国銀行が新王者となる。

全国優勝27回の輝やかなしい成績

は直接指導に当たられた監督の方々は勿論ではありませんが、偏に協会の発展に貢献された方々を紹介させて戴きます。大橋敏夫、西尾他嘉志、天野耕兵衛、若山博と歴代の理事長。升井友治、宮川栄一、大林孝則、菊田淳一、宮口優、橋本隆の諸氏は日夜寝食を忘れ指導をなされ、故人では油谷、中川、長永氏の情熱と献身的な尽力に感謝を致します。

昨年小松市で開催された第46回国体では、激戦の中、天皇・皇后賜杯を感動の内に獲得しえたのは、中学より成年までの一環された強化策の成果と自負しています。特に成年男子は全くの混成で取組と練習で苦勞が多かった。中学校・高校・大学・一般と60台の登録数は他に比べても決して多くは無く、地元選手での純血と、戦いは焦慮と不安の中での快挙と云える。「石川県国体」を終え空虚な感じもしますが、更なる発展と競技水準の向上へと大なる目標に奮闘されている協会役員を紹介をさせていただきます。

会長・米谷、副会長・寺垣、久木、谷口、理事長・村井、副理事長・表、川端、審判部・伊藤、庶務・榎木、学連・曾谷、中体連・浜野、高体連・古橋……の方々です。施設は総体・国体で整備されましたが、まだまだ充分と云いきれぬ所もあります。当面の課題として、次の事を話題として諸策に

- 取りくんで行きます。
- (1) 指導者の育成と適正を行う。
 - (2) 小・中・高校の連携指導と強化の実施。
 - (3) 未普及地区の普及以上
- 気候と地理的ハンディを越えて、女子陣は数多くのナショナル選手を誕生させています。今後は生涯スポーツの一端として明るく、楽しい、強いチームの育成に先輩諸氏に劣ることなく日夜努力をして行きます。今後とも一層のご自愛とご支援をお願い致します。
- (文責 村井)

見・知・創・造

“With You”



発見の瞬間があり、心躍る人がいる

空想する時間があり、夢みる人がいる

創造する空間があり、歴史をつくる人がいる

また見ぬ世界と夢をカタチに、あなたと

本社 〒460 名古屋市中区錦1丁目11-18 (興銀ビル)
TEL (052) 201-5111 (大代表)

東京本社 〒105 東京都港区西新橋1丁目7-13 (大同ビル)
TEL (03) 3501-5261 (大代表)

 **大同特殊鋼**

各地の大会結果

東北

第42回青森県高校秋季大会

(11月21、22日)野辺地高校体育館ほか

青森山田	18	6	横浜分
▼1回戦			
青森山田	23	16	五所工
▼2回戦			
野辺地工	15	14	七戸
今別	23	13	鱈ヶ沢
青森商	25	11	三本木
青森南	16	14	野辺地
青森東	37	16	三本木農
十和田工	28	6	柏木農
青森	30	10	五所
▼3回戦			
青森山田	27	9	野辺地工
青森商	20	17	今別
青森南	27	17	青森東
青森	27	12	十和田工
▼準決勝			
青森商	18	18	青森山田
青森	19	16	青森南
▼決勝			
青森商	13	8	青森
青森	9	8	青森

関東

第13回群馬県新人大会

(11月1、3日)藤岡市民体育館ほか

青森中央	33	5	今別
▼1回戦			
青森中央	9	6	三本木
六ヶ所	40	4	青森東
青森西	14	11	野辺地
青森商	16	8	六ヶ所
▼準決勝			
青森中央	31	13	青森商
青森西	16	13	青森商
▼決勝			
青森西	13	10	22青森中央
青森	10	12	

群馬県高校新人大会

(11月22、23日)富岡高校体育館ほか

富岡中	18	17	甘楽二中
▼準決勝			
富岡南中	23	12	富岡東中
下仁田西中	22	19	富岡中
▼決勝			
富岡南中	10	9	17下仁田中
富岡南中	9	9	西中
松南中	14	13	矢中中
▼2回戦			
富岡中	23	10	松南中
富岡南中	14	12	塚沢中
富岡西中	18	12	相生中
富岡東中	13	6	高南中
▼準決勝			
富岡中	22	10	富岡南中
富岡西中	10	7	富岡東中
▼決勝			
富岡中	8	12	5富岡西中
富岡中	12	2	

第8回関東少年少女大会

(日付・会場不明)

前橋商	24	17	高崎東
前橋商	26	21	高崎工
下仁田	28	14	高崎東
下仁田	22	16	高崎東
桐生西	14	10	桐生西
桐生西	28	15	桐生西
群馬女	19	12	吉井
群馬女	19	12	吉井
▼2位リーグ			
桐生女	15	10	高崎東
桐生女	19	11	高崎女
高崎女	10	9	高崎東
(順位)①群馬女②桐生西③吉井			
▼1回戦			
塩山スポ少A	17	3	野火止ク
筑波学園ク	14	12	富岡少年ク
大宮北小	7	4	守谷ク
吉川中央	22	1	塩山スポ少
フアイターズ			
▼準決勝			
塩山スポ少A	10	7	筑波学園ク
大宮北小	14	8	吉川中央
フアイターズ			
▼決勝			
塩山	5	3	5大宮北小
スボ少A	6	2	
▼1回戦			
日吉台バード	8	3	塩山スポ少A

北信越

長野県高校新人大会

(11月6、8日)更埴市体育館ほか

妙義S C	20	2	立野
筑波学園ク	9	2	ストロング
大宮北小	7	2	野火止ク
▼2回戦			
日吉台バード	8	4	坂戸N C
大宮北小	6	4	筑波学園ク
▼決勝			
日吉台	0	3	妙義S C
バード	6	2	5大宮北小
▼1回戦			
富岡少年ク	13	8	野火止ク
守谷ク	18	0	塩山スポ少
▼決勝			
富岡少年ク	9	6	守谷ク
▼1回戦			
塩山スポ少	9	1	立野ストロング
坂戸N C	9	4	野火止ク
▼決勝			
塩山スポ少	7	1	坂戸N C
▼1回戦			
白田	26	13	梓川
美須々	29	6	上田千曲
▼2回戦			
蟻ヶ崎	31	26	長野東

屋代	塩尻	屋代	塩尻	白田	小諸商業	屋代	佐久	小諸商業	美須々	北佐久農	▽1回戦	坂城	▽決勝	坂城	屋代	▽準決勝	坂城	小諸	上田	▽準々決勝	坂城	松本第一	小諸	諏訪清陵	田川	屋代	更級農業	上田
16	19	25	21	19	28	26	25	23	18	14	7	16	17	40	22	28	33	35	12	26	25	19	26	31	33			
3	16	4	10	5	6	16	4	2	7	12	5	14	14	11	13	12	9	16	0	7	13	17	13	6	17			
7	白	小諸商業	北佐久農	美須々	蟻ヶ崎	佐久	田川	長野南	更級農業	坂城	12	小上	上田	松本第一	諏訪清陵	田川	更級農業	白田	北佐久農	長野南	美須々	野沢南	野沢北	野沢北	富士見	蟻ヶ崎		

第15回三重県高校秋季大会
(11月8日) 22日 / 桑名工高体育

東海

仁愛女子	▽決勝	仁愛女子	福井商	▽準決勝	仁愛女子	羽水	福井女	福井商	▽2回戦	福井農	北陸	▽決勝	高志	北陸	▽準決勝	高志	金津	羽津	北陸	▽1回戦	ほか
19	10	9	33	19	32	39	28	28	18	22	18	22	16	27	22	22	23	35	22	18	16
7	7	4	0	5	2	4	21	6	7	6	2	14	7	14	10	18	5	14	5	8	4
11	羽水	福井女	高志	科技	武生商	福井農	藤島	高志	津水	東	武生	藤島	津水	東	武生	藤島	津水	東	武生	藤島	津水

福井県高校新人大会
(11月14、16日) / 羽水高校体育館

上野
 名張西 | 四日市 | ▽1回戦 | 亀山 | 桑名工 | ▽3位決定戦 | 亀山 | 四日市工 | ▽準決勝 | 桑名 | 亀山 | 桑名工 | 四日市工 | 桑名工 | ▽3回戦 | 桑名 | 四日市 | 川越 | 亀山 | 高田 | 桑名工 | 四日市中央工 | 四日市工 | ▽2回戦 | 四日市四郷 | 尾鷲 | 津西 | 桑名北 | 四日市西 | 上野 || 10 | 21 | 11 | 9 | 5 | 15 | 14 | 19 | 10 | 22 | 27 | 31 | 17 | 14 | 34 | 37 | 18 | 45 | 30 | 35 | 18 | 12 | 18 | 15 | 29 | 14 | 12 | 18 | 15 | 29 | 14 |
| 7 | 1 | 7 | 9 | 4 | 13 | 13 | 9 | 9 | 3 | 10 | 1 | 6 | 10 | 8 | 6 | 17 | 7 | 4 | 2 | 7 | 0 | 12 | 11 | 5 | 9 | 7 | 0 | 11 | 5 | 9 |
| 四日市四郷 | 桑名 | 松阪女子 | 13 | 四日市工 | 桑名 | 桑名工 | 桑名工 | 四日市 | 川越 | 高田 | 四日市中央工 | 四日市四郷 | 四日市南 | 尾鷲 | 津西 | 上野 | 朝明 | 津東 | 津東 | 海星 | 名張西 | 桑名北 | 四日市西 | 上野 | 海星 | 名張西 | 桑名北 | 四日市西 | 上野 |

近畿

桃山	城山	城山	堀川	堀川	堀川	桂川	桂川	桂川	桂川	▽子選リーグ	山崎	平城	平城	北嵯峨	北嵯峨	北嵯峨	●Dブロック	洛星	同志社	同志社	洛水	洛水	洛水	●Cブロック	日吉	両洋	両洋	東稜	東稜	東稜	洛北	洛北	洛北	●Bブロック
12	21	16	14	20	26	20	18	23	32	9	13	13	15	7	19	19	16	16	22	14	11	16	17	16	17	20	15	11	17	27	8	27	24	
0	4	2	8	5	1	12	14	10	0	5	12	8	7	4	15	13	8	14	5	11	11	9	12	13	9	12	5	8	4	6	8	2		
洛陽工	桃山	洛陽工	城山	桃山	洛陽工	堀川	桃山	洛陽工	洛陽工	山崎	東山	東山	山城	平城	山城	洛星	塔南	塔南	洛星	洛星	洛星	洛星	洛星	日吉	城陽	城陽	日吉	城陽	両洋	東稜	洛北	洛北	洛北	日吉

第36回京都府高校新人大会
(11月1) 22日 / 太陽丘体育館

大谷
 大谷 | 大谷 | ●Fブロック | 乙訓 | 西治 | 西治 | 京都西 | 京都西 | 京都西 | ●Eブロック | 山城 | 平城 | 平城 | 北嵯峨 | 北嵯峨 | 北嵯峨 | ●Dブロック | 洛星 | 同志社 | 同志社 | 洛水 | 洛水 | 洛水 | ●Cブロック | 日吉 | 両洋 | 両洋 | 東稜 | 東稜 | 東稜 | 洛北 | 洛北 | 洛北 | ●Bブロック || 20 | 20 | 18 | 17 | 10 | 12 | 23 | 15 | 22 | 9 | 9 | 13 | 13 | 15 | 7 | 19 | 19 | 16 | 16 | 22 | 14 | 11 | 16 | 17 | 16 | 17 | 20 | 15 | 11 | 17 | 27 | 8 | 27 | 24 |
| 7 | 10 | 9 | 7 | 7 | 6 | 10 | 3 | 9 | 5 | 12 | 8 | 7 | 4 | 15 | 13 | 8 | 14 | 5 | 11 | 11 | 9 | 12 | 13 | 9 | 12 | 5 | 8 | 4 | 6 | 8 | 2 |
| 伏見工 | 京都学園 | 洛西 | 南八幡 | 乙訓 | 南八幡 | 乙訓 | 南八幡 | 西宇治 | 山城 | 東山 | 東山 | 山城 | 平城 | 山城 | 洛星 | 塔南 | 塔南 | 洛星 | 洛星 | 洛星 | 洛星 | 洛星 | 洛星 | 日吉 | 城陽 | 城陽 | 日吉 | 城陽 | 両洋 | 東稜 | 洛北 | 洛北 | 洛北 | 日吉 |

第36回京都市高校新人大会
(11月1) 22日 / 太陽丘体育館

▼準決勝	住友金属	27	12	那賀高
▼決勝	那賀ク	26	5	紀北農芸高
▼準決勝	那賀ク21	8	13	15住友金属
▼1回戦	那賀高	10	7	新宮商高
▼1回戦	桐蔭高	10	1	御坊商工高
▼準決勝	初芝橋本高	32	2	オレンジ
▼2回戦	笠田高	24	7	県和商ク
▼2回戦	貴志川高	9	4	箕島高
▼2回戦	海南高	12	11	和歌山大
▼2回戦	那賀高	25	2	粉河高
▼2回戦	那賀ク	11	9	県和商高
▼準決勝	初芝橋本高	37	1	桐蔭高
▼準決勝	那賀高	27	5	貴志川高
▼準決勝	初芝橋本高	11	18	海南高
▼決勝	那賀高	11	7	那賀ク
▼決勝	那賀高10	3	7	9 初芝橋本高
▼1回戦	紀伊	32	5	打田
▼1回戦	那賀	16	10	西和田
▼2回戦	貴志川	13	6	湯浅
▼2回戦	岩出	35	9	近大和歌山
▼2回戦	岩屋	21	11	紀伊
▼2回戦	岩出第二	21	13	那賀
▼2回戦	貴志川	15	11	有功

▼準決勝	金屋	13	13	岩出
▼準決勝	岩出第二	13	10	貴志川
▼1回戦	金屋29	14	15	5 岩出第二
▼1回戦	岩出第二	11	5	桃山
▼1回戦	打田	16	7	粉河
▼準決勝	貴志川	17	2	那賀
▼準決勝	岩出第二	12	8	打田
▼決勝	岩出	25	6	貴志川
▼決勝	岩出	7	7	2 岩出第二
▼決勝	岩出	7	0	
▼1回戦	下松	12	10	西京
▼2回戦	下松	26	10	下松
▼2回戦	下松	16	14	下関中央
▼2回戦	高水	20	18	小野田
▼準決勝	岩陽	22	11	下関西
▼準決勝	下松	17	8	岩国工
▼決勝	下松	23	7	高水

山口県高校選手権
(9月27、28日/下関中央工業高)

▼準決勝	下松工22	12	10	10 岩陽
▼1回戦	岩国	21	7	華稜
▼1回戦	早納	10	8	野田学園
▼1回戦	徳山	17	14	下関第一
▼1回戦	徳山	10	7	防府西
▼1回戦	徳山	14	8	防府
▼2回戦	山口	11	6	南陽
▼2回戦	岩国	21	8	聖光
▼2回戦	宇部	12	7	下関工
▼2回戦	徳山	23	5	早納
▼2回戦	徳山	15	14	徳山
▼2回戦	徳山	15	9	宇部
▼準決勝	岩国	13	8	宇部
▼準決勝	岩国	18	7	徳山
▼準決勝	徳山	11	6	岩国
▼決勝	岩国29	12	17	7 徳山
▼1回戦	高水	25	17	高水
▼1回戦	徳山	16	5	徳山
▼1回戦	徳山	25	8	徳山
▼1回戦	徳山	25	17	徳山
▼1回戦	岩国	18	12	華稜
▼1回戦	岩国	24	10	熊毛北
▼1回戦	岩国	11	5	熊毛北
▼3位決定戦	華陵	12	6	高水

第45回山口県中学校大会
(10月11、12日/平川中学校)

▼決勝	岩国商16	10	6	14 徳山商
▼1回戦	防府西	18	6	響
▼2回戦	長府	18	1	防府西
▼2回戦	高森	11	7	防府
▼準決勝	岩国	17	7	山口中央
▼準決勝	岩陽	12	11	西京
▼準決勝	高森	8	5	長府
▼準決勝	岩国	14	12	岩陽
▼準決勝	岩国	14	10	高森
▼1回戦	高千帆	26	8	大島
▼1回戦	末武	21	3	東部
▼1回戦	熊毛	17	9	須金
▼1回戦	玄浦	17	9	鴻南
▼2回戦	下松	22	21	菊川
▼2回戦	下松	30	7	高千帆
▼2回戦	下松	24	14	文洋
▼2回戦	末武	20	9	小野田
▼2回戦	末武	25	16	天尾
▼2回戦	日新	18	10	熊毛
▼2回戦	北河	48	3	竜王
▼2回戦	平田	24	5	玄洋
▼2回戦	住吉	30	10	深浦

山口県高校新人大会
(11月8、9日/徳山市総合スポ―ツセンター)

▼準決勝	末武	8	8	11 玖珂
▼準決勝	玖珂	10	23	下住松
▼準決勝	玖珂	19	13	周陽
▼準決勝	下松	12	9	平田
▼準決勝	住吉	18	12	熊毛
▼準決勝	末武	14	9	河内
▼2回戦	周陽	17	8	太華
▼2回戦	河内	19	4	岐陽
▼1回戦	住吉	6	10	13 美川
▼1回戦	住吉	15	11	日下
▼準決勝	美川	17	11	平田
▼準決勝	日新	13	11	北内
▼準決勝	日新	16	14	末武
▼準決勝	日新	11	7	周陽
▼1回戦	宇部	12	0	早納
▼1回戦	下関工	23	9	野田学園
▼1回戦	下関中央	21	5	山田
▼1回戦	下関西	15	11	徳山
▼1回戦	下関西	19	10	下松

日本協会だより

■ 2 月度常務理事会

出席 渡辺副会長・中沢専務理事・松本監事他 8 名

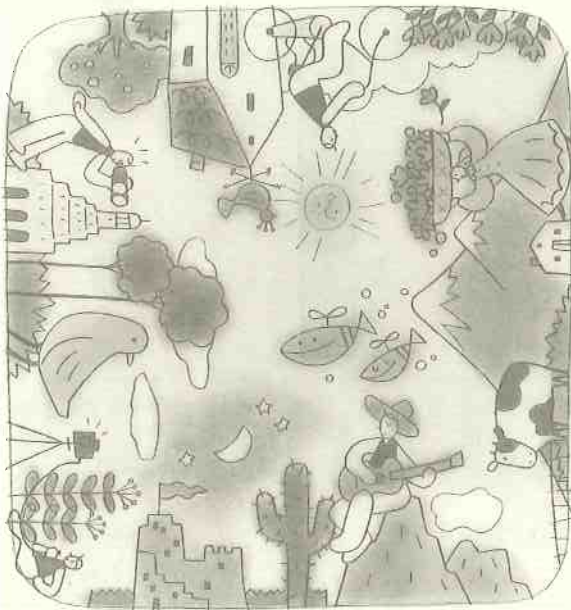
1. 平成 5.6 年度役員人事について
2 月 1 日正副会長会議開催、11 月 28 日の臨時評議会の決定を了承。渡辺副会長、中沢専務理事で原案を作成し 2 月 27 日の評議会に提案する。
2. 平成 5 年度事業計画案承認
3. 平成 5 年度事業予算案承認
4. 委員報告会
 - (1)強化委員会 井委員長の A H F . C O C (競技、組織委員会) 出席報告
(ア)96 年アトランタオリンピック出場総数決定
男子 12 名 女子 8 名
(イ)93 年世界選手権開催地及び会期 男子 パーレン 9.3-9.15 決定 女子 中国 8.20-8.30 交渉中
(ウ)95 年世界選手権出場枠 アジア 2 (中東 1、極東 1) 極東の子選時期等は極東地区で検討
(エ)極東クラブ選手権 次回の C O C で検討
 - (2)財務委員会日本リーグチー

ム賛助金の徴収方法及び登録金全般の取り扱いについて次回理事会に提案

- (3)審判委員会
 - (ア)平成 5 年度ルール改正は I H F より全文は未着のため取敢えず改正部分についてのみ規定を作り 4 月 1 日より実施
 - (イ)レフェリー・シンポジウムを 2.20-21 に開催。50 名以上の参加を予定
 5. 「ミズノ・スポーツメントール賞」の推薦
優秀選手を数多く養成した指導者として古賀昇氏を推薦
 6. 検定業者会議
2 月 4 日、日本体協に於て開催、21 社中 18 社出席。今後、課題解決のため、製品別分科会を設置。検討を進める。
- 平成 4 年度第 3 回全国理事会
2 月 13 日 於：日体協会議室
出席 中沢専務理事・大野監事他 17 名
1. 平成 5 年度事業計画案承認
 2. 平成 5 年度事業予算案承認
 3. 今後の財務問題について
検定料、役員賛助会費は平成 5 年度から改正改定。登録料、

日本リーグ加盟金は平成 6 年度改定を目的に検討を進める。

4. 登録規定の制定
平成 6 年度施行を目標に別途委員会を設け検討
 5. 中体連の日本ハンドボール協会への加盟承認
 6. 第 48 回国民体育大会準備状況報告
- 平成 4 年度第 2 回評議員会
2 月 27 日 於：日体協会議室
出席 渡辺副会長・中沢専務理事・松本・大野監事他 25 名・委任状 18 名。他に日本協会常務理事 9 名
1. 平成 5 年度事業計画承認
 2. 平成 5 年度事業日程承認
 3. 平成 5 年度事業予算承認
 4. 今後の財務問題について
逼迫した財務状態に対応するための増収対策・平成 5 年度より実施…役員賛助会費値上げ、検定料改定・平成 6 年度実施に向けて検討…登録金、リーグ加盟金等
 5. 中体連の加盟承認
 6. 平成 5.6 年度役員選任 (9 ブロック、5 連選選出役員は後日決定)



OMRON

みんなの暮らしを
もっと便利に、
みんなの気持ちを
もっと豊かに。

事業を通じて、世の中をより快適で便利に。

そして文化活動を通じ、

好奇心や創造性を刺激するような場を。

オムロンは 21 世紀に向けて、誰もが幸せに暮らせる

「最適化社会」の実現をめざしています。

社会を豊かに、おもしろくするオムロン

オムロン株式会社

本社 千600 京都市下京区烏丸通七条下ル
東京本社 千105 東京都港区虎ノ門3-4-10

Your Daiwa Staff

ライフプランは暮らしの中でも大きなテーマです。このテーマにトータルにお応えできるのが〈ダイワ〉です。信託もできるべんりな都市銀行として、財産の管理と運用、不動産の売買仲介と有効利用、年金や相続・贈与の設計、ローンのお世話から自動サービス、さらに国際業務と、幅広くバックアップさせていただきます。お客さまとともに明日を創造するBank〈ダイワ〉をぜひご活用ください。



Daiwa Bank

大和銀行

ス

ーパーシュートを見せてほしい。

踏み付け部エッジの傾斜が、スパイラルソールが、そしてαゲルが、果敢な攻撃を可能にする。



品名 スカイハンド® ジャパンα-S 品番 THH 711

メーカー希望小売価格 ¥16,000(消費税抜き)

カラー/ ●ホワイト×黒レッド・マリンブルー ●ホワイト×黒 マリンブルー・レッド

サイズ/22.5-29.0cm

α GEL 



Asicsは
オリンピックキャンペーンの
オフィシャルスポンサーです。

asics
ATHLETIC SHOES

株式会社 アシックス ●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談室までどうぞ。〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL (078) 303-2233(専用)・(078) 303-3333(大代表)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL (03) 3624-1814(専用)・(03) 3624-2221(大代表) ■☉はアシックスの登録商標です。

〔財〕日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』

第三二九号

昭和四十年六月七日 平成五年三月二十六日 印刷
第三種郵便物認可 平成五年四月一日 発行

東京都渋谷区神南一丁目一三三番一
電話代表 三三八一三三六
振替 東京 六一五八三四八番
編集兼 発行人

中澤重夫

定価三百五拾円
年間購読料
三千二百円

Mizuno[®]
THE WORLD OF SPORTS

攻守を加速する
新戦力ライントアップ。



ウイングゾーン EX-L ¥14,000
16KH-20114 サイズ:23.5~28.0
ホワイトにネイビー/ゴールド 他1色
●甲:人工皮革 ●底:ゴム、合成樹脂



ウイングゾーン EX-S ¥13,000
16KH-21162 サイズ:23.5~28.0
ホワイトにレッド/シルバー 他1色
●甲:人工皮革 ●底:ゴム、合成樹脂

RunBird
ATHLETIC FOOTWEAR



160H-202 ¥4,700
陸定球
亀甲型 天然皮革2号 HL-2



160H-203 ¥4,800
陸定球
亀甲型 天然皮革3号 HL-3



160H-212 ¥4,400
陸定球
亀甲型 天然皮革2号 HL-2A

スポーツあげたい、
スポーツほしい。
全国共通スポーツ券

●記載価格は税抜き価格です。消費税相当額はお客様にご負担いただくことになります。●ミズノ製品についてのお問い合わせ・ご相談は「ミズノお客様商品相談センター-MUSIC」
東京 TEL. (03)3233-7110 大阪 TEL. (06)614-8110